

取扱説明書

OPERATION MANUAL

ミニ耕うん機

YK

YK300QT

YK300QT-B

YK300QT-D

YK300QT-S

YANMAR

輸出もしくは非居住者に提供する、または海外で技術提供をする場合

当社製品および関係技術資料を輸出もしくは非居住者に提供する、または海外で技術提供をする場合、安全保障貿易管理に関する日本および関係各国の関連法規制を受ける場合があります。
確認の上、必要な手続きを実施してください。

機体銘板とエンジン番号

機体銘板とエンジン番号には、アフターサービスをお受けになるときなどに必要な情報が記載されています。

機体銘板は、フェンダー左（図 1）に貼り付けられています。

エンジン番号は、機体前方のエンジンクランクケース（図 2）に打刻されています。

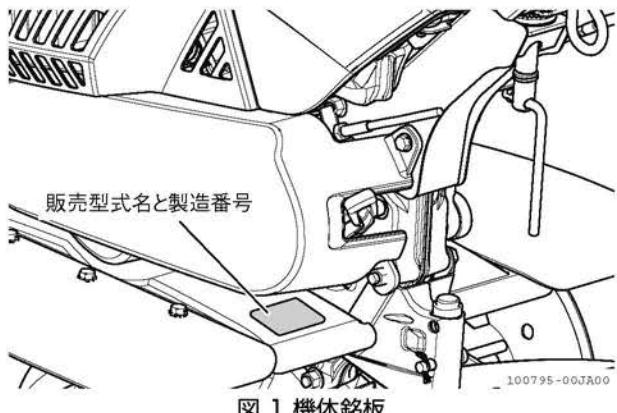


図 1 機体銘板

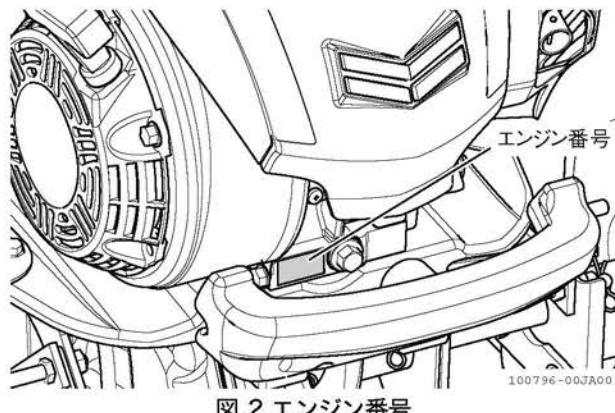


図 2 エンジン番号

販売型式名、製造番号などを記入してください

ミニ耕うん機の製造番号とエンジン番号は、アフターサービスをお受けになるときや、万一盗難の被害にあった場合などに必要となりますので、各銘板に記載されている販売型式名や製造番号などをつぎの表に記入してください。

販売型式名:	アタッチメント型式名および製造番号:
区分:	
製造番号:	
エンジン型式:	
エンジン番号:	

※ ご購入のミニ耕うん機によっては、該当しない項目もあります。

※ アフターサービス、保証については、43ページをご参照ください。

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、ミニ耕うん機をお買い上げいただきありがとうございました。

この取扱説明書は、ミニ耕うん機の取り扱い方法と使用上の注意事項について記載しています。

本製品をご使用いただく前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。

また、お読みになったあとも、この取扱説明書を製品に近接し、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、必ずこの取扱説明書および、同梱されている「安全に作業をするために ヤンマー管理機・ミニ耕うん機」を本製品と共に渡してください。
- この取扱説明書および安全銘板を紛失または損傷された場合は、すみやかに当社の特販店、または JA にご注文ください。
- 安全に対する項目については、同梱されている「安全に作業をするために ヤンマー管理機・ミニ耕うん機」に記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気づきのことがございましたら、お買い上げいただいた特販店、または JA へご相談ください。
- 本書 1 ページの記入欄にミニ耕うん機の製造番号、エンジンの番号などを記入してください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容には、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載漏れなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

このミニ耕うん機は、路上(公道)走行できません。

このミニ耕うん機は、ほ場内の作業を目的としており、小型特殊自動車の型式認定を受けておりません。ほ場まで移動される場合は、トラック等に載せて運搬してください。

このミニ耕うん機は、日本国内での使用を想定しています。

このミニ耕うん機は、日本国内のみでの使用を想定しており、海外に輸出したり、海外で使用することは想定しておりません。従って、当社の品質保証の適用範囲外となります。

説明記号の見かた

▲ 危険

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

▲ 警告

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものを示します。

▲ 注意

その警告文に従わなかった場合、けがを負う可能性があるものを示します。

【重要】

誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

【参考】

作業能率をよくしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

本製品の使用目的について

本製品は、ほ場の耕うんなどの管理作業用の作業機としてご使用ください。

使用目的以外の作業や改造などはしないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、重大な事故や機械の破損をまねくおそれがあります。また、保証の対象になりませんので、ご注意ください。

(詳細は、保証書をご覧ください。)

本製品の使用条件について

本製品は、ほ場の耕うんなどの管理作業用の作業機として設計、製造されています。

表の条件で使用することにより本来の性能を発揮します。

表 1 使用条件

温度	-5 °C ~ 40 °C
高度	1500 m以下
傾斜度	15度(26%)以下

型式と仕様について

本製品には、つぎの型式があり、取扱説明書の内容で、型式・仕様によっては該当しない項目もあります。

表 2 型式

型式名	YK300QT	YK300QT-B	YK300QT-D		YK300QT-S
仕様			ITWUT	IT	
変速段数	前進1段	前進1段・後進1段	前進2段・後進1段		
抵抗棒	○	○	-	○	○
ダブル抵抗棒	-	-	○	-	-
回転式移動輪付きうね立て器	-	-	○	-	-
上下切替え式移動輪	-	-	-	○	-
ハンドル左右回動	-	-	○	○	-

運転操作のシンボルマーク

ミニ耕うん機を安全に能率よく操作、作業していただくために、つぎのシンボルマークをミニ耕うん機および取扱説明書の中で使用しています。シンボルマークの意味をよく理解していただき、安全にご使用ください。

表 3 シンボルマーク



取り扱いやメンテナンスの方法などはつぎのサイトもご活用ください。

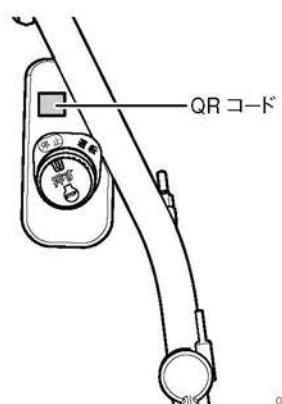
<https://www.yanmar.com/jp/redirect/qr/yk300qt/1/>

スマートフォンや携帯電話からは、つぎのQRコードを読み込むことができます。

読み込み方法などについては、各スマートフォンや携帯電話の販売店へご相談ください。



QRコードは本製品にも貼り付けられています。



077246-00JA03

目次

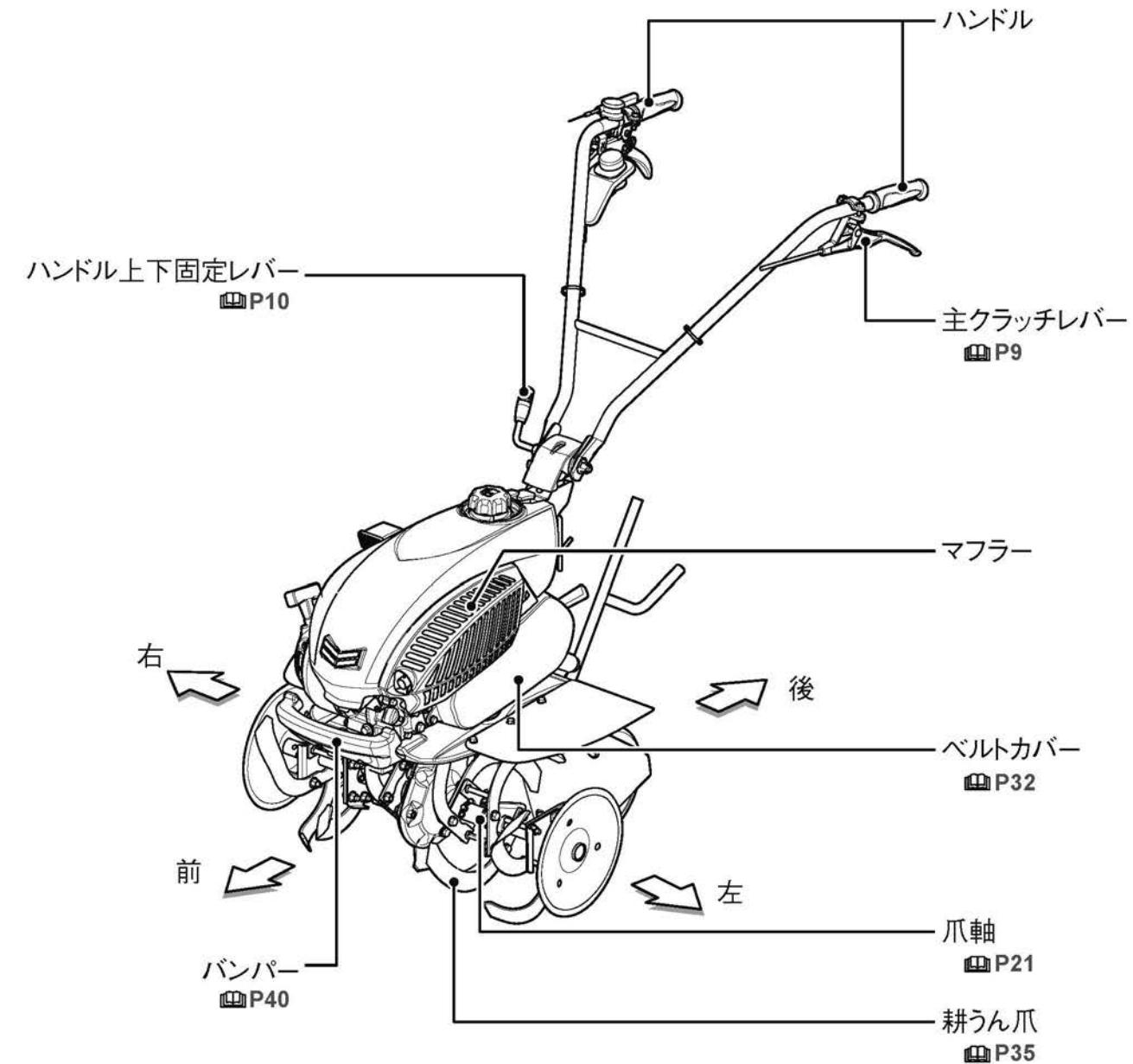
目次

機体銘板とエンジン番号	1
販売型式名、製造番号などを記入してください.....	1
はじめに.....	2
1章 必ずお読みください	8
安全銘板.....	8
安全銘板の貼り付け位置.....	8
安全銘板の手入れについて.....	8
2章 運転のしかた.....	9
各部のはたらきと使いかた.....	9
運転操作部.....	9
本機周辺部.....	10
作業調節部.....	10
エンジン部.....	12
運転前の点検	13
緊急時の停止方法について	13
点検のしかた	14
エンジンの始動と停止	14
始動のしかた	14
エンジンの停止のしかた	15
運転操作	16
発進のしかた	16
変速のしかた <-D、-S型式>	16
旋回のしかた	16
後進のしかた <-B、-D、-S型式>	17
停止のしかた	17
3章 作業のしかた.....	18
作業前の準備	18
ハンドル高さの調節のしかた	18
ハンドル回動のしかた <-D型式>	18
耕深の調整のしかた	19
簡易うね立て器での作業のしかた <ITWUT仕様>	19
作業について	20
ほ場での耕うん作業のしかた	20
爪・爪軸のセットのしかた	21
4章 お手入れのしかた	23
作業後の手入れについて	23
作業後の手入れのしかた	23
各部の注油箇所	23
点検・整備のしかた	25
定期点検・整備の時期について	26
定期点検一覧表	26
燃料の点検・補給・排出のしかた	27
オイルの点検・交換のしかた	28
エアクリーナーの洗浄のしかた	31
燃料コシ器の掃除のしかた	32
主クラッチレバーの点検・調整のしかた	32
後進レバーの点検・調整のしかた <-B、-D、-S型式>	34
増締めするところ	34
耕うん爪の点検・交換のしかた	35
点火プラグの点検・掃除・交換のしかた	36
燃料パイプ・電気配線の点検のしかた	37
不調診断のしかた	38
5章 保管のしかた	39
保管するときは	39
特に長期保管するときは(1カ月以上)	39
保管のしかた	39
6章 輸送のしかた	40
車両への積み・降ろしのしかた	40
7章 仕様	41
主要諸元	41
8章 廃棄物の処理について	42
廃棄をするときは	42
ミニ耕うん機の廃棄	42
廃油の処理	42
ホース類の処理	42
9章 サービスと保証について	43
保証書は大切に保管してください	43
アフターサービスをお受けになるときは	43
10章 索引	44
11章 部品リスト(部品早見表)	45
主要消耗部品	45
12章 用語解説	46

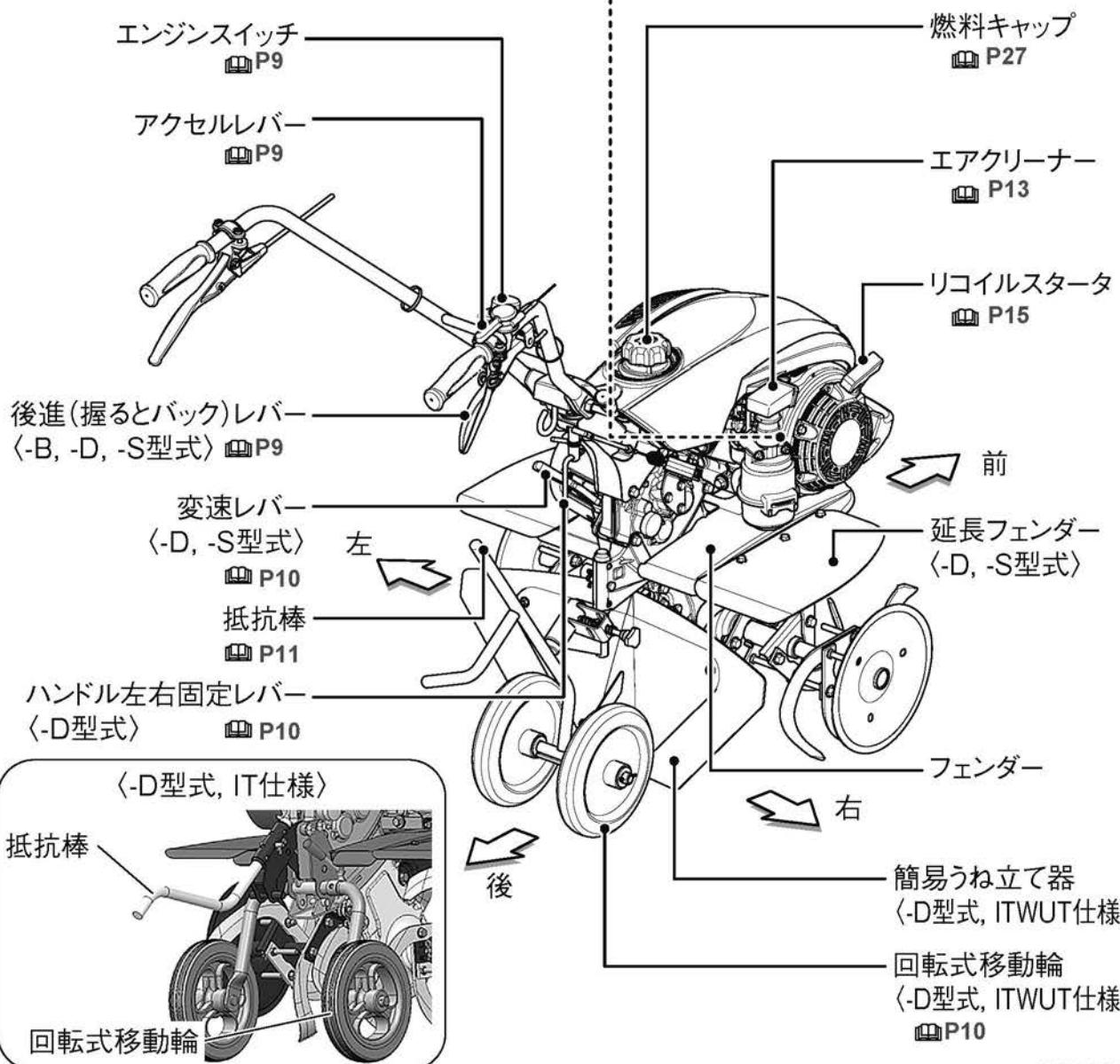
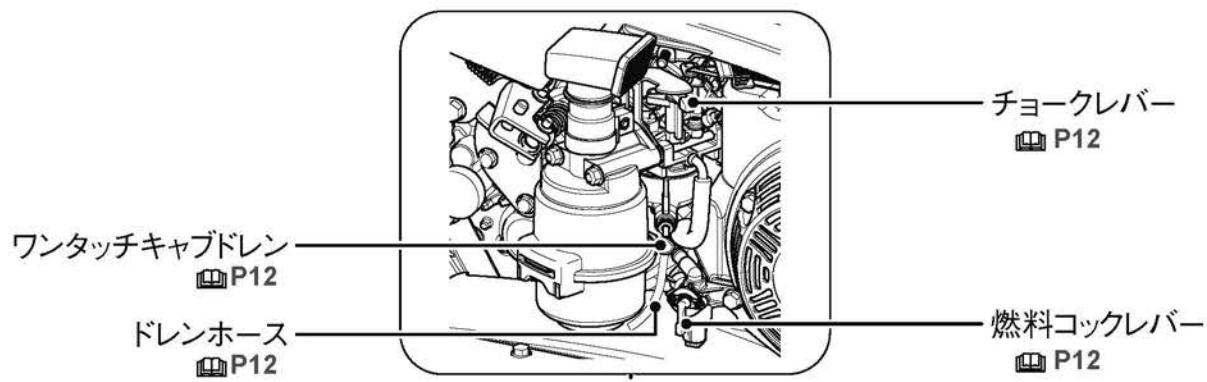
イラスト目次

外観

※イラストは、YK300QT-Dをモデルにしています。



100797-00JA00



1章 必ずお読みください

安全銘板

安全銘板の貼り付け位置

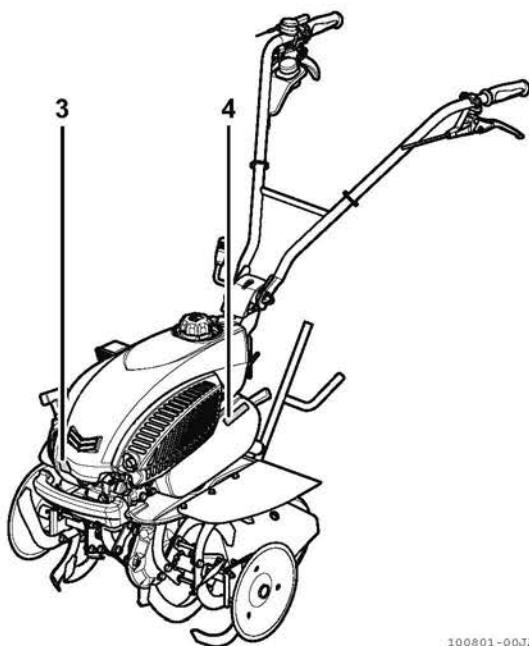
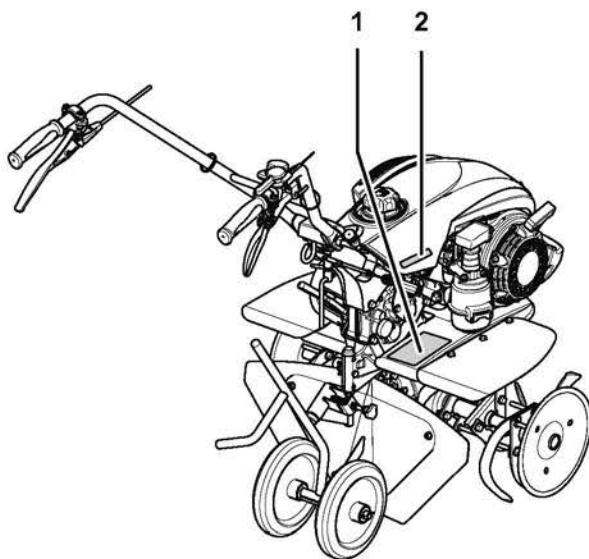
安全銘板の貼り付け位置を示したものです。

安全銘板には、安全に作業を行っていただくための事項が記載されています。必ず作業をはじめる前に読んでください。常に汚れや破損のないように保ち、もし破損、紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。

※イラストは YK300QT-D, ITWUT仕様 モデルについています。

1

必ずお読みください



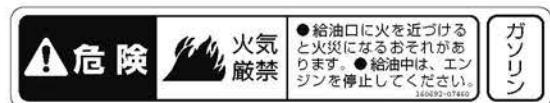
1. 1A2480-86101 統一銘板



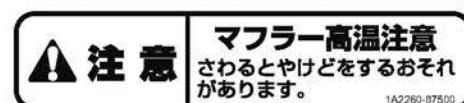
3. 1A2260-87100 警告(排ガス)



2. 160692-07460 危険(火気厳禁)



4. 1A2260-87500 注意(マフラー高温)



安全銘板の手入れについて

- 安全銘板は、いつもきれいにして、傷つけないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石けん水を付けた布でふき、やわらかい布で水分をふき取ってください。
- 高圧洗浄機の高圧水を、安全銘板に当てないでください。はがれるおそれがあります。
- 安全銘板を破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。
安全銘板はお買い上げいただいた特販店、またはJAにご注文ください。

2章 運転のしかた

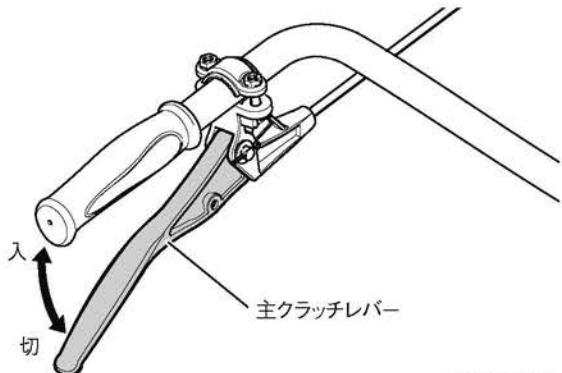
各部のはたらきと使いかた

運転操作部

ハンドル部周辺のレバー、スイッチについて説明します。

主クラッチレバー

エンジンからの動力を伝えたり、切り離したりするときに使用します。



100803-00JA00

図 2-1 主クラッチレバー

主クラッチレバーを握ると「入」位置となり、動力が伝わります。

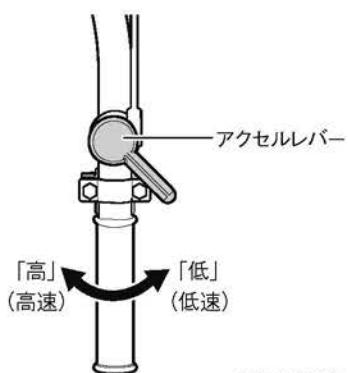
主クラッチレバーを離すと動力が切れます。

【参考】

緊急時には、すぐに主クラッチレバーから手を離し、爪軸の回転を停止させてください。

アクセルレバー

エンジン回転を調整するときに使用します。



049173-00JA04

図 2-2 アクセルレバー

エンジンスイッチ

エンジンを始動、停止するときに使用します。

■ エンジン始動時

エンジンスイッチは押しながら回して「運転」位置にします。「運転」位置ではエンジンスイッチが浮き上がります。

■ エンジン停止時

エンジン運転中、エンジンスイッチを押すとエンジンスイッチが「停止」位置に戻り、エンジンが停止します。

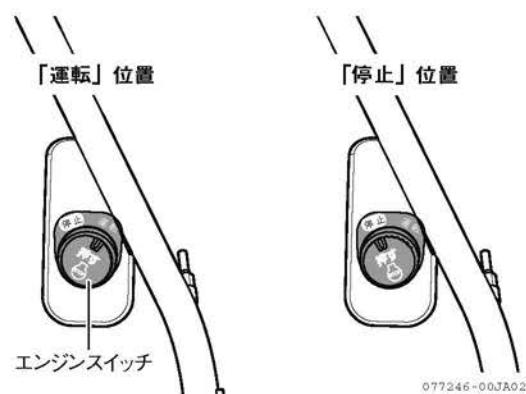


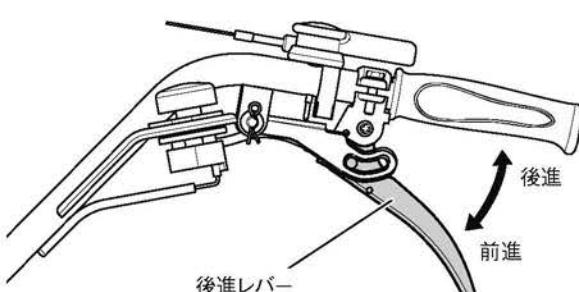
図 2-3 エンジンスイッチ

077246-00JA02

後進(握るとバック) レバー (-B、-D、-S型式)

ミニ耕うん機が停止した状態（主クラッチレバーを離した状態）で後進レバーを握ると、アクセルレバーが「低」位置に戻り、バックギヤに入ります。

後進レバーを離すと前進ギヤに戻ります。（アクセルレバーは「低」位置のままでです）



100804-00JA00

図 2-4 後進(握るとバック) レバー (-B、-D、-S型式)

ハンドル上下固定レバー

作業者の背丈に合わせて、ハンドルを上下するときに使用します。

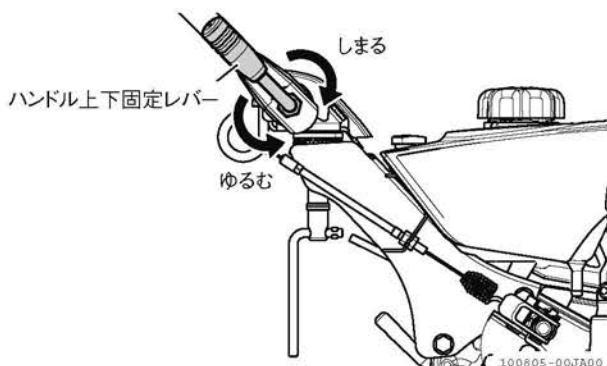


図 2-5 ハンドル上下固定レバー

ハンドル左右固定レバー（-D型式）

あぜづくり、あぜぎわ、ハウス支柱ぎわの作業など、作業に合わせハンドルを左右に回動するときに使用します。

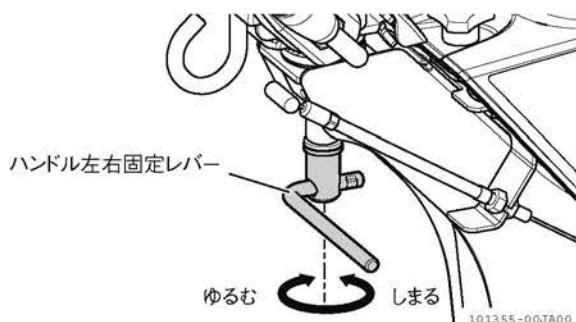


図 2-6 ハンドル左右固定レバー（-D型式）

本機周辺部

変速レバー（-D、-S型式）

耕うん爪の回転数を変更するときに使用します。
変速レバーで前進2段の変速ができます。

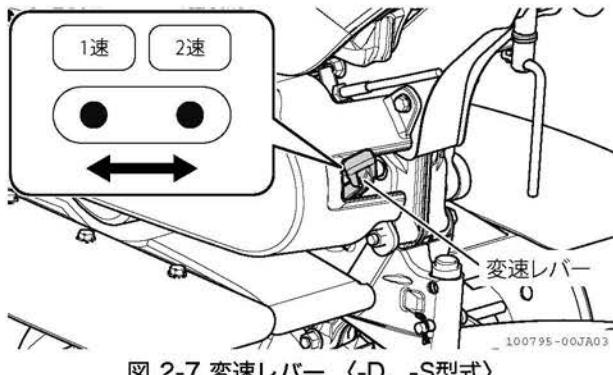


図 2-7 変速レバー（-D、-S型式）

作業調節部

回転式移動輪（ITWUT仕様）

▲ 注意

回動時は、手を添えて、ゆっくり回動してください。手を離すと、勢いよく回転し、けがをするおそれがあります。

本機を移動するときに使用します。

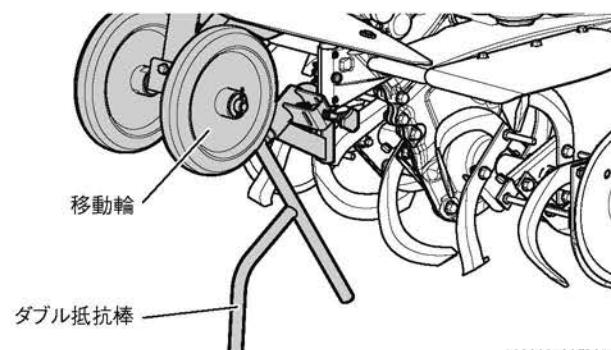


図 2-8 回転式移動輪（ITWUT仕様）

ロックレバーを引いてロックを解除し、回転させることで、移動輪とダブル抵抗棒を切り替えることができます。

ダブル抵抗棒と移動輪を切り替えるときは、抵抗棒をヒッチのまん中か下の穴に取り付けた状態で、切り替えてください。

1. ロックレバーを引いて、回動ロックを解除します。（図 2-9）
2. ロックレバーを回して、ロックレバーのピンを長穴にひっかけロック解除を保持します。（図 2-9）

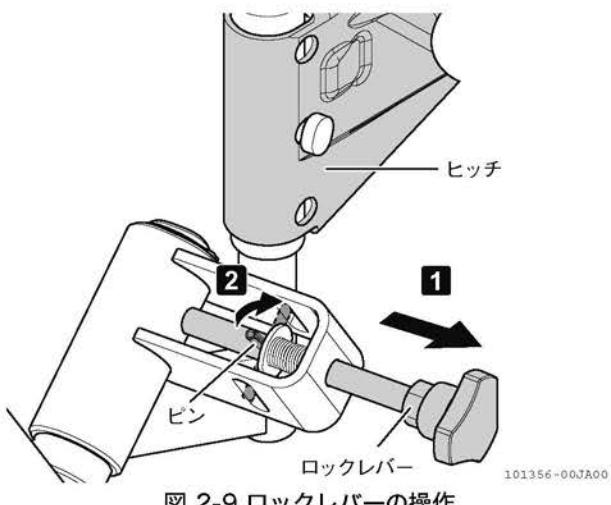


図 2-9 ロックレバーの操作

3. 移動輪の位置を回転させます。

4. ロックレバーを回して、ロックします。確実にロックされていることを確認します。

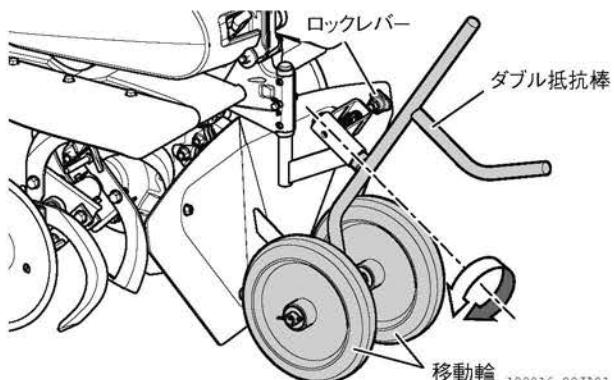


図 2-10

上下切り替え式移動輪(IT仕様)

切替レバーワンタッチで移動輪と抵抗棒が切替わります。

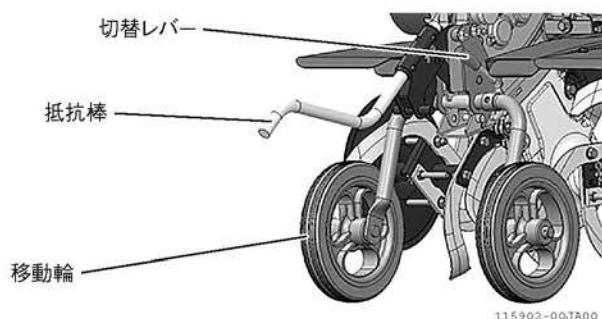
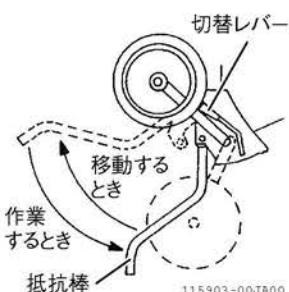


図 2-11

- 1) レバーを下に押してロックを解除してください。

- 2) 作業をするときは抵抗棒を下に押し下げ、完全にロックするまで(カチッと音がするまで)押し込んでください。



移動するときは抵抗棒を上に引き上げ、完全にロックするまで(カチッと音がするまで)引き上げてください。

抵抗棒

抵抗棒を地面に押し付けることで、耕うん作業を行うことができます。

▲ 注意

耕うん作業時は、抵抗棒を必ず取り付けてください。移動輪付き抵抗棒を使用する場合、耕うん作業は必ず抵抗棒側で行ってください。守らないと、ミニ耕うん機が飛び出して、けがをするおそれがあります。

■ 抵抗棒

〈ITWUT仕様以外〉

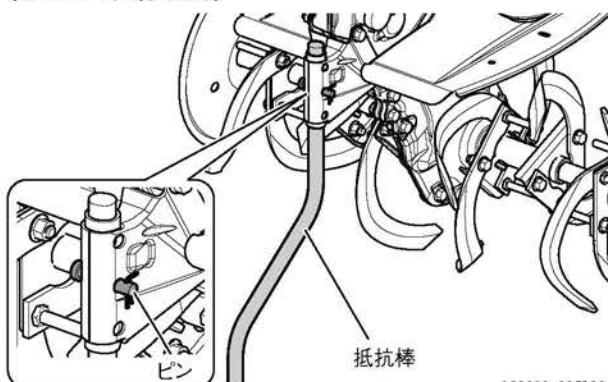


図 2-12 抵抗棒 (ITWUT仕様以外)

■ ダブル抵抗棒

〈ITWUT仕様〉

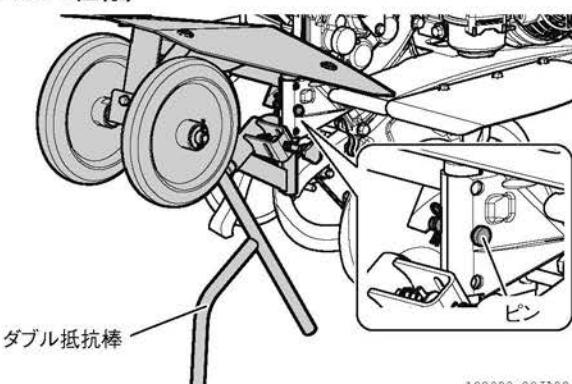


図 2-13 ダブル抵抗棒 (ITWUT仕様)

エンジン部

エンジン部のレバー等について説明します。

リコイルスタータ

エンジンを始動するときに使用します。

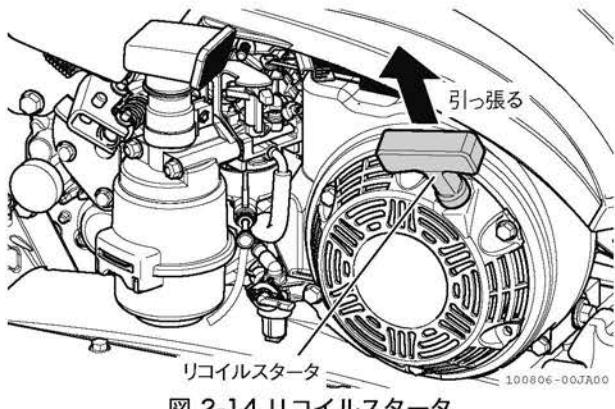


図 2-14 リコイルスタータ

【重要】

リコイルスタータ部の吸気口に付いたゴミは、きれいに掃除してください。エンジンの出力低下や破損の原因となります。

チョークレバー

エンジンが冷えている場合、始動するときに使用します。

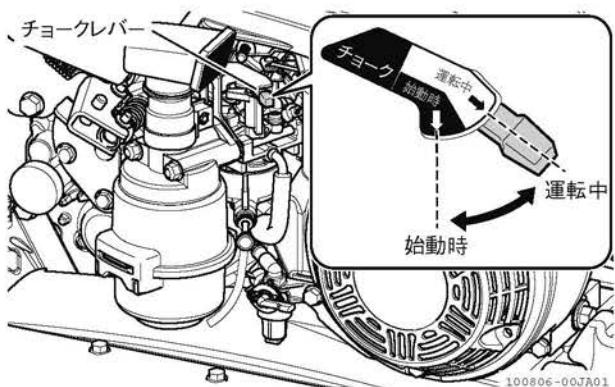


図 2-15 チョークレバー

「運転中」位置…運転時の位置です。

「始動時」位置…エンジンが冷えているときの始動時の位置です。

燃料コックレバー

エンジンへの燃料供給、停止の切り替えを行うときに使用します。

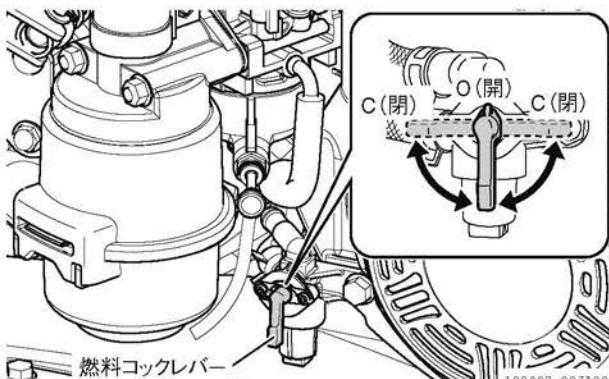


図 2-16 燃料コックレバー

「O(開)」位置…燃料がエンジンへ流れます。

「C(閉)」位置…燃料がエンジンへ流れません。

エンジン始動時、運転時は燃料コックレバーを「O(開)」位置に、エンジン停止時は「C(閉)」位置にします。

ワンタッチキャブドレン

キャブレター内の燃料を抜くときに使用します。

(46 ページの「12章 用語解説」を参照)

ワンタッチキャブドレンを引くと燃料がドレンホースから流れ出ます。

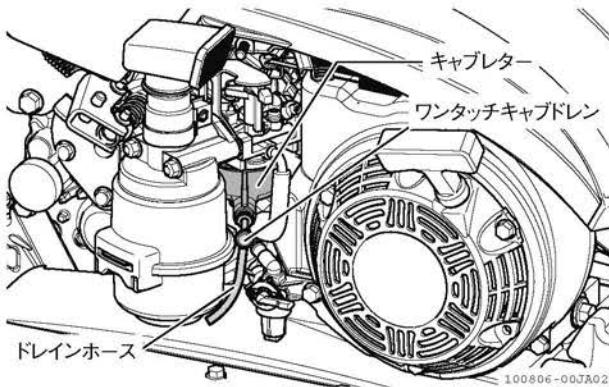


図 2-17 ワンタッチキャブドレン

エアクリーナー

エンジンに供給する空気をきれいにします。

定期的に洗浄してください。

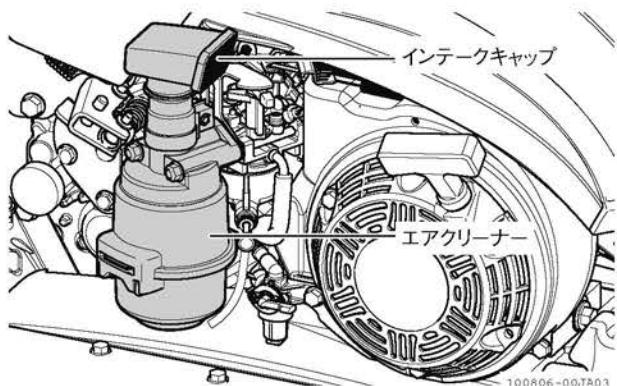


図 2-18 エアクリーナー

【参考】

エアクリーナーの洗浄のしかたは31ページをご覧ください。

運転前の点検

！危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明をしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。燃料に引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

！警告

- 点検をするときは、交通の危険がなく、平たんで安定した場所に駐車させ、エンジンを停止してください。
- エアクリーナーのエレメントは、必ず取り付けてから始動・運転をしてください。逆火により炎が噴き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

緊急時の停止方法について

エンジンスイッチを押してください。

エンジンが停止します。

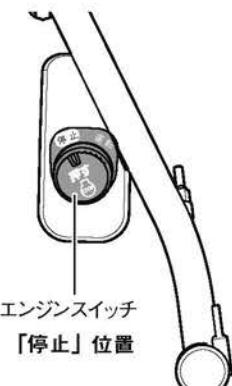


図 2-19 エンジンスイッチ

▲ 注意

- 破損しているカバー類がないか、必ず作業前に確認してください。カバー類が破損した状態で使用すると、ミニ耕うん機に巻き込まれ、けがをするおそれがあります。
- 使用前には必ず点検をしてください。特にクラッチ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動することを確認してください。作動しないときは、確実に作動するように調整してください。

点検のしかた

運転・作業を行う前に、つぎの点検を行ってください。

表 2-1 点検のしかた

点検箇所	参照ページ
各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか。	34
燃料は入っていますか。 燃料漏れ、燃料パイプの損傷はありませんか。	27
エンジンオイルは規定量入っていますか。 エンジンオイルの汚れ、油漏れはありませんか。	29
走行ミッションオイルは規定量入っていますか。 走行ミッションオイルの油漏れはありませんか。	30
エアクリーナーの汚れはありませんか。	31
マフラーなどの過熱部分のホコリやゴミはありませんか。	—
配線の被覆のはがれや接続部のゆるみはありませんか。	37
各操作レバーの作動状態は正常ですか。	9~12, 34
エンジンスイッチを停止位置にして、エンジンが停止しますか。	9

エンジンの始動と停止

始動のしかた

▲ 警 告

- エンジンの始動および運転は、閉めきった屋内で行わないでください。やむを得ず屋内で始動、運転する場合は、十分に換気をしてください。
- エンジンを始動する前に、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。

エンジン始動前の確認・準備

1. 燃料コックレバーを「O (開)」位置にします。
2. 主クラッチレバーが「切」位置になっていることを確認します。
3. アクセルレバーを「低」(低速)の位置から約30°「高」(高速)側に回した「始動」位置にします。
(図 2-20)

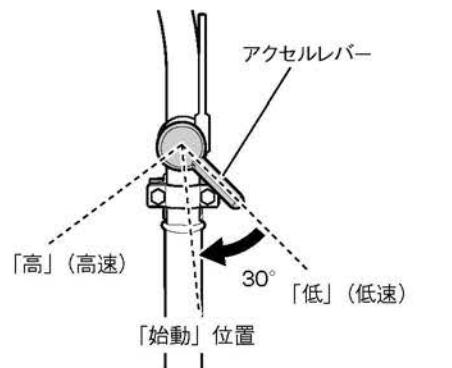


図 2-20

4. チョークレバーを「始動時」位置にします。
(エンジンが冷えている場合のみ) (図 2-21)

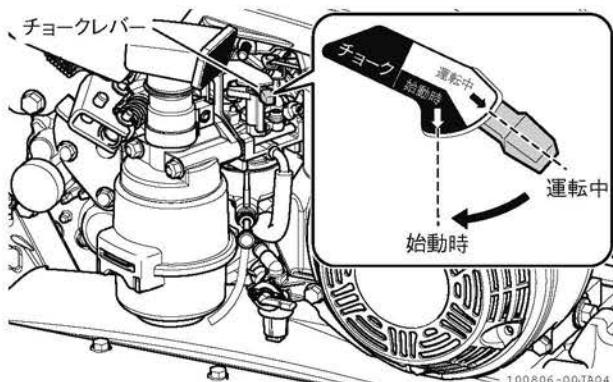


図 2-21 チョークレバー

【重要】

- エンジン始動後は、チョークレバーを確実に「運転中」位置に戻してください。
- エンジン停止後すぐに始動するときは、「運転中」位置で始動してください。守らないと、エンジンに不具合が生じる場合があります。

エンジン始動操作のしかた

1. エンジンスイッチを「運転」位置にします。
2. リコイルスタータを引っ張ります。エンジンが始動したら、リコイルスタータをゆっくりと元に戻します。(図 2-22)

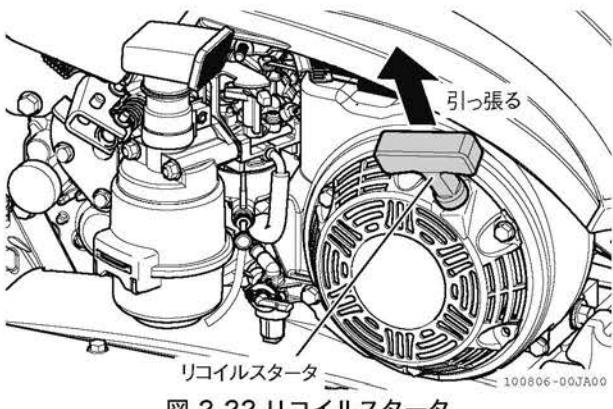


図 2-22 リコイルスタータ

3. エンジンの回転状態を見ながらチョークレバーを徐々に「運転中」位置にします。(図 2-23) (エンジンが冷えている場合のみ)

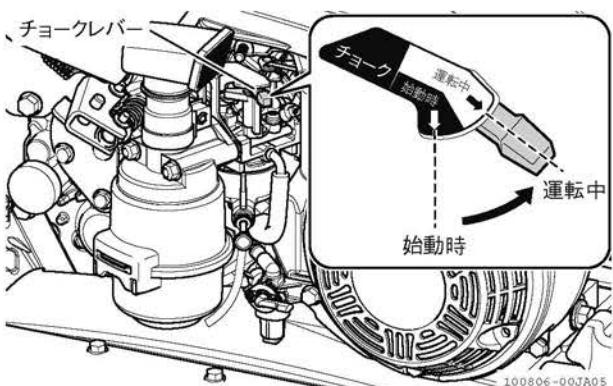


図 2-23 チョークレバー

【重要】

- リコイルスタータを何回も引き続けると、燃料の吸いすぎとなり、始動困難になります。そのときは、少し時間をおいてから始動してください。
- 運転中は、リコイルスタータを引っ張らないでください。

【参考】

リコイルスタータを2～3回引っ張ってもエンジンが始動しないときは、チョークレバーを「運転中」位置にして、再度リコイルスタータを引っ張ってください。

4. アクセルレバーを「低」位置にします。エンジン回転が下がります。
5. 約5分間、エンジンをかけたままにしておきます。(暖機運転)

【重要】

冬季など、外気温が低いときは、アイドリング時のエンジン回転が規定よりも低くなり、ハンチング(回転ムラ)を起こす場合があります。そのような場合は、アクセルレバーを「高」(高速)側と「低」(低速)側の中間位置にして、暖機運転を行ってください。

エンジンの停止のしかた

1. アクセルレバーを「低」位置にします。
2. エンジンスイッチを押して、「停止」位置にします。エンジンが停止します。
3. 燃料コックレバーを「C(閉)」位置にします。

運転操作

ミニ耕うん機の発進から停止までの操作方法を説明します。

！警告

- ミニ耕うん機の上に乗ったり、物を載せたりしないでください。
- 溝のある農道では、路肩に十分注意してください。
- 坂道や凹凸、カーブの多い場所は低速で移動してください。
- 〈-B、-D、-S型式〉の場合、後進するときは、アクセルレバーを「低」位置にし、周囲に十分注意してください。

！注意

溝やあぜを横断したり、軟弱な場所を通過するときは、エンジン回転を低速にしてください。

発進のしかた

1. 〈-D、-S型式〉の場合は、変速レバーを希望の位置に入れます。
2. 主クラッチレバーを握って「入」位置にします。ミニ耕うん機が発進します。

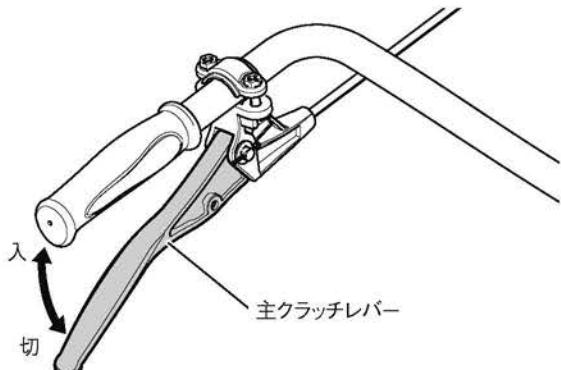


図 2-24 主クラッチレバー

100803-00JA00

変速のしかた〈-D、-S型式〉

！注意

変速をするときは、必ず主クラッチレバーを「切」位置にして、ミニ耕うん機が停止してから行ってください。主クラッチレバーが「入」位置のまま変速すると、思わぬ事故やけがをするおそれがあります。

1. アクセルレバーを「低」（低速）位置にします。
2. 主クラッチレバーを「切」位置にして停止させます。
3. 変速レバーを希望の変速段の位置にします。

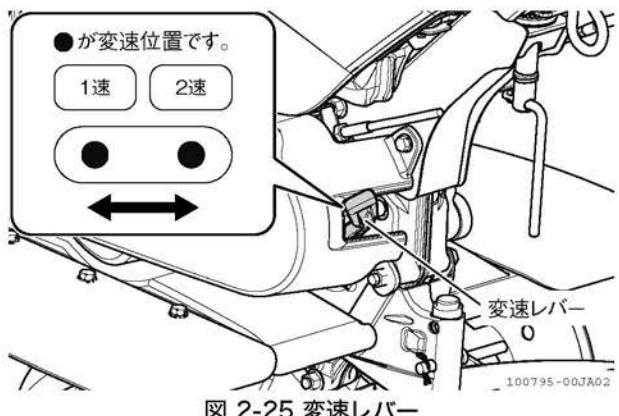


図 2-25 変速レバー

旋回のしかた

1. アクセルレバーを「低」（低速）位置にします。
2. ハンドルを持ち上げて、抵抗棒を地面より上げます。（図 2-26）



101360-00JA00

図 2-26

3. ハンドルを振って、ミニ耕うん機の向きを変えます。

後進のしかた<-B、-D、-S型式>

⚠ 警 告

後進するときは、アクセルレバーを低速にし、周囲に十分注意をして行ってください。守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注 意

後進するときは、ミニ耕うん機が停止した状態(主クラッチレバーを「切」位置状態)にしてから、後進レバーを「後進」位置にしてください。ミニ耕うん機が停止していない状態で後進レバーを「後進」位置にすると、思わぬ事故やけがをするおそれがあります。

1. 主クラッチレバーを「切」位置にして、ミニ耕うん機を停止させます。
2. 後進レバーを「後進」位置にします。(アクセルレバーが「低」になり、バックギヤに入ります)
3. 後進レバーを「後進」位置のまま、主クラッチレバーを「入」位置にするとミニ耕うん機が低速で後進します。(図 2-27)

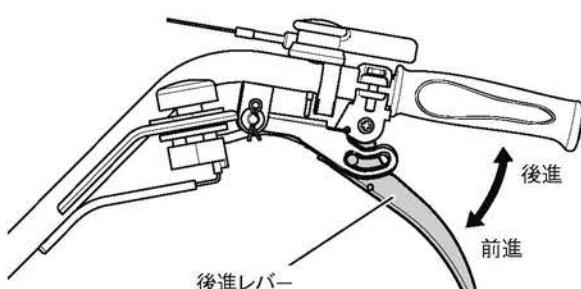


図 2-27

停止のしかた

⚠ 注 意

平たんで安定した場所に停止し、エンジンを止めてください。守らないと、ミニ耕うん機が動き出し、けがをするおそれがあります。

1. 平たんな場所で、主クラッチレバーを放し「切」位置にし、ミニ耕うん機を停止させます。
2. アクセルレバーを「低」(低速)位置にします。エンジン回転が下がります。
3. エンジンスイッチを押して、「停止」位置にします。エンジンが停止します。
4. 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。

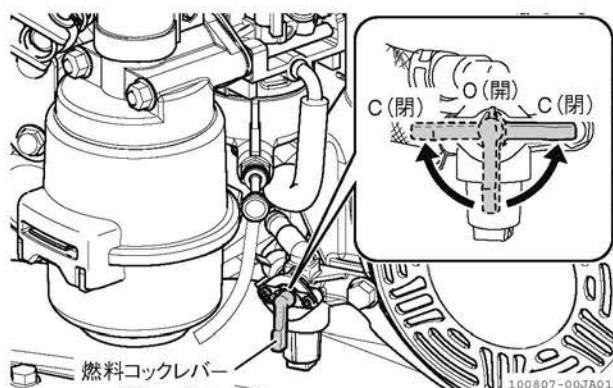


図 2-28 燃料コックレバー

3章 作業のしかた

作業前の準備

ハンドル高さの調節のしかた

▲ 警 告

ハンドルの高さを調節するときは、ミニ耕うん機を停止してから行ってください。車軸が回転したときに、傷害事故を引き起こすことがあります。

ハンドルの高さは、作業者の体格、作業の種類に合わせて、上下に調節できます。

- 3
1. ハンドルを持ち、ハンドル上下固定レバーをゆるめます。(図 3-1)
 2. ハンドルを上下に動かし、適切な位置にします。(図 3-1)

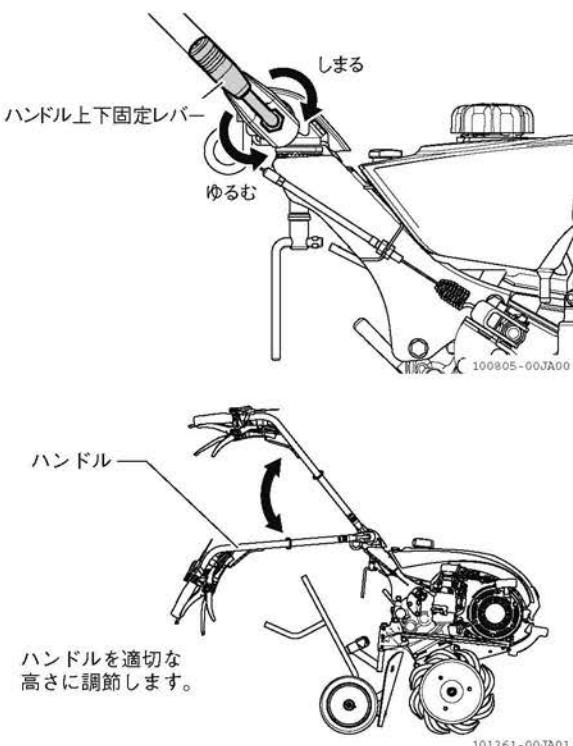


図 3-1 ハンドル高さの調節のしかた

3. ハンドル上下固定レバーをしめると、その位置でハンドルが固定されます。調節後は、ハンドルが固定されていることを確認します。

【重要】

ハンドル上下固定レバーはハンドルのガタのないように、しっかりと締め付けてください。

ハンドルにガタがあるまま使用すると、ハンドル支点部が摩耗し固定できなくなります。

ハンドル回動のしかた(-D型式)

あぜづくり、あぜぎわ、ハウス支柱ぎわなど作業あとを歩きづらい場合にハンドルを左右に回動できます。

1. ハンドルを持ち、ハンドル左右固定レバーをゆるめます。(図 3-2)
2. ハンドルを希望の位置に回動させます。(図 3-3)
3. ハンドル左右固定レバーでハンドル位置を固定します。

【重要】

ハンドル左右固定レバーはハンドルのガタのないように、しっかりと締め付けてください。ハンドルにガタがあるまま使用すると、ハンドル支点部が摩耗し、固定できなくなります。

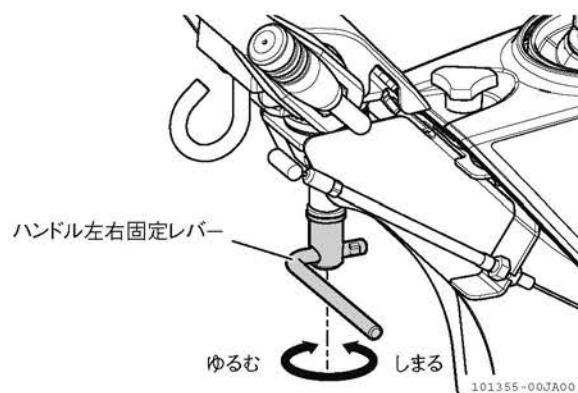


図 3-2 ハンドル回動のしかた (-D型式)

■ ハンドル回動範囲

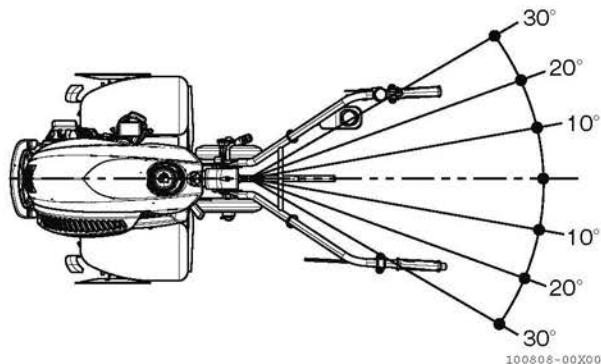


図 3-3 ハンドル回動範囲

耕深の調整のしかた

【重要】

固いほ場や、石の多いほ場では、抵抗棒をヒッチのまん中の穴に取り付けて耕うん作業を行ってください。

【参考】

ほ場が柔らかく、ミニ耕うん機が土にもぐってしまい前に進みにくい場合、ヒッチのピン穴を1段下げ、抵抗棒を下げることでミニ耕うん機が進みやすくなります。

〈D型式〉の場合、さらに柔らかいほ場では、別売りの抵抗棒も設定しております。

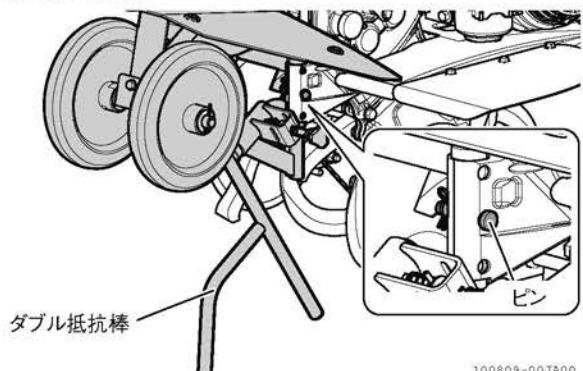
ハンドル操作で抵抗棒が地面に押し付けられる力を変えることにより耕深が調整できます。

- ・深くしたいとき…ハンドルを少し押し下げます。
- ・浅くしたいとき…ハンドルを少し持ち上げます。

■高さの変えかた

1. スナップピンを外して、平頭ピンを抜きます。
2. 抵抗棒を上下に動かし、抵抗棒の穴をヒッチの穴に合わせます。
3. ヒッチの穴に平頭ピンを刺し、スナップピンを取り付けます。

〈ITWUT仕様〉



〈ITWUT仕様以外〉

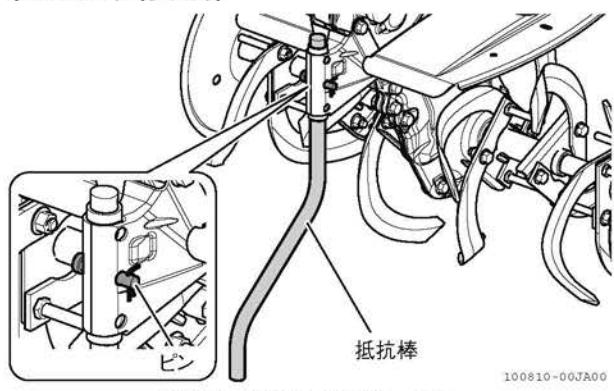


図 3-4 耕深の調整のしかた

簡易うね立て器での作業のしかた〈ITWUT仕様〉

【重要】

- 簡易うね立て器を使用する前は、必ず十分に耕うんしてからご使用ください。
- 調整時にミニ耕うん機を傾斜させるときは、必ず燃料コックレバーを「C(閉)」位置にしてください。

【参考】

簡易うね立て器は、簡単な溝やうねをつくることができます。本格的な溝やうね形状が必要な場合は、別売りのアタッチメントをご購入ください。

ご購入に関しては、ミニ耕うん機をお買い上げいただいた特販店またはJAにご相談ください。

1. 簡易うね立て器を使用して、うね立て作業を行うときは、うね立て器をヒッチのまん中の穴にセットします。まん中の穴にセットしていない場合、うね立て板と、爪、フェンダーが干渉し回動が困難になることがあります。

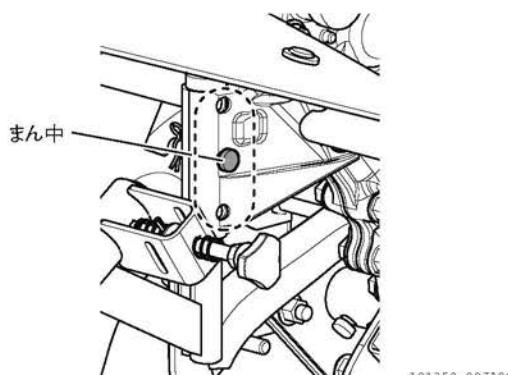


図 3-5 うね立て器のセット位置

2. 移動輪の切り替えと同じ方法で、うね立て器が下になるように、回動します。回動後、うね立て器がロックされていることを確認します。
(図 3-6) (10ページ参照)

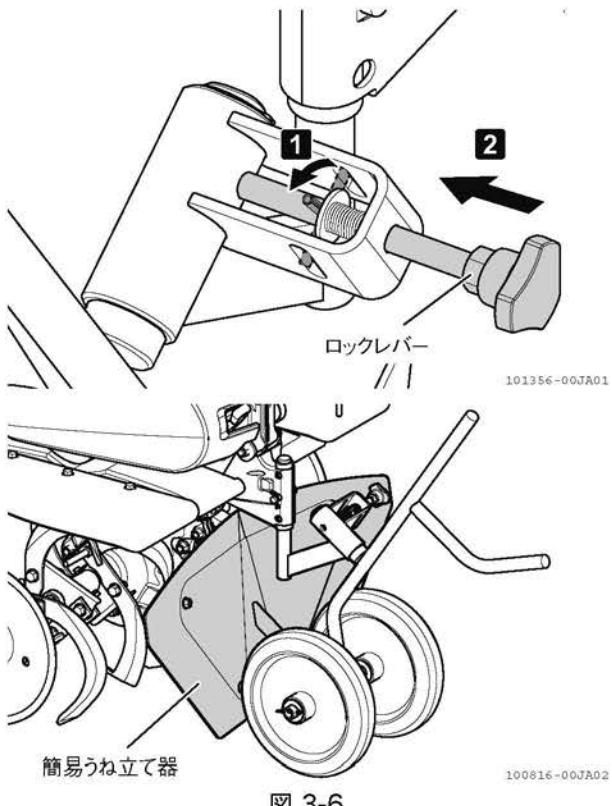


図 3-6

3. 耕うんされたほ場で作業を行うことで、溝をつくることができ、溝と溝の間にうねが形成されます。

3

作業のしかた

作業について

⚠ 警 告

- 耕うん部に足を入れないでください。耕うん部が動いたときに傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- ハウス内で作業をするときは、排出ガスが充満しないように、十分に換気を行ってください。
- 作業時以外は、耕うん部の回転を止めてください。
- マフラーに付着した枯れ草やわらは取り除いてください。火災が起り、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注 意

- 地面が固かったり、石をかんだりすると、回転する爪の勢いでミニ耕うん機が思わぬ方向に飛び出すことがあります（ダッシュ現象）。常に主クラッチレバーを「切」位置にできる姿勢で作業をしてください。
- 〈-B、-D、-S型式〉の場合、後進するときは低速で移動し、転倒しないように足元に十分注意してください。後方に障害物がないことを確認して、障害物とミニ耕うん機の間にはさまれないようにしてください。
- ハンドル上下の操作はゆっくり行ってください。ハンドルを早く持ち上げると、ミニ耕うん機が前に飛び出し、けがをするおそれがあります。

ほ場での耕うん作業のしかた

1. 〈-D、-S型式〉の場合、変速レバーを希望の変速段数の位置にします。
2. 抵抗棒をヒッチのまん中の穴に取り付けます。
3. アクセルレバーでエンジン回転を調整します。
4. 抵抗棒を地面に押し付けたまま、主クラッチレバーをゆっくり握り「入」位置にします。
その場で爪が回転し、地面を耕うんします。
5. ハンドルを少し持ち上げると耕うんしながらゆっくり前進します。

爪・爪軸のセットのしかた

延長爪軸の取り付け、取り外しをすることにより、耕うん幅を変更することができます。

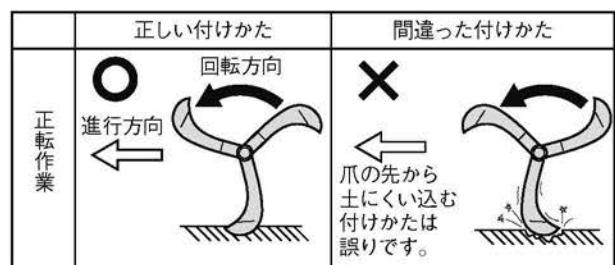
爪のセットのしかた

■ 爪の回転方向と爪の向きについて

⚠ 注意

爪の向きと進行方向を間違えないように注意してください。間違えると思わぬけがをするおそれがあります。

表 3-1 ハンドルの向きと爪の取り付けかた



爪軸の取り付けかた

爪軸、延長爪軸、サイドディスクが平頭ピンで、連結されています。スナップピンを抜いてから平頭ピンを抜くと、延長爪軸、サイドディスクを外すことができます。

【参考】

延長爪軸を外した状態（耕幅390mm）でサイドディスクを取り付けることはできません。（図 3-7）

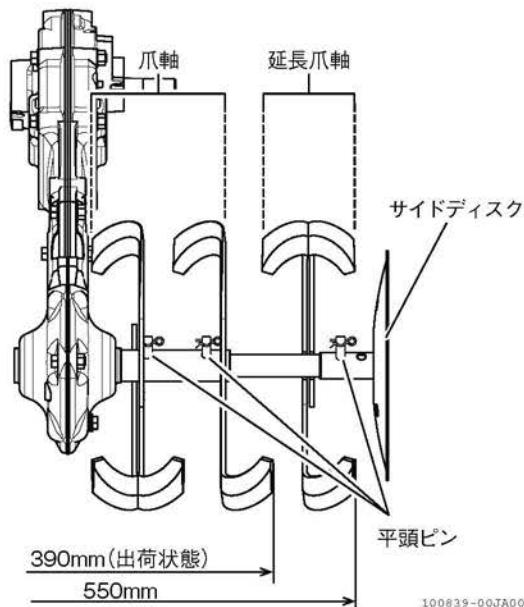


図 3-7

■ スナップピンの差し込み方向

〈爪の向き・回転方向〉

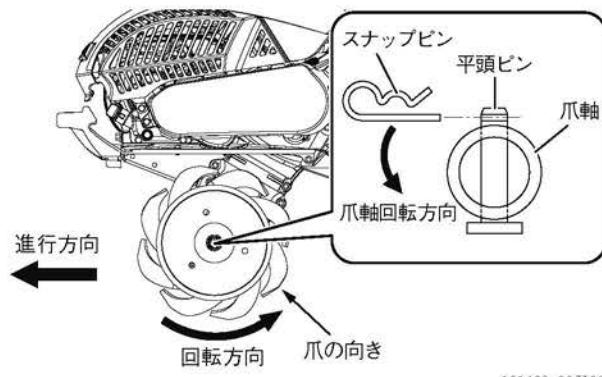


図 3-8

■ 爪軸と延長爪軸の向き

爪軸の刻印「L」、「R」と延長爪軸の刻印の向きを合わせるように延長爪軸を組み付けてください。（図 3-9、図 3-10）

〈左側(L側)爪軸〉

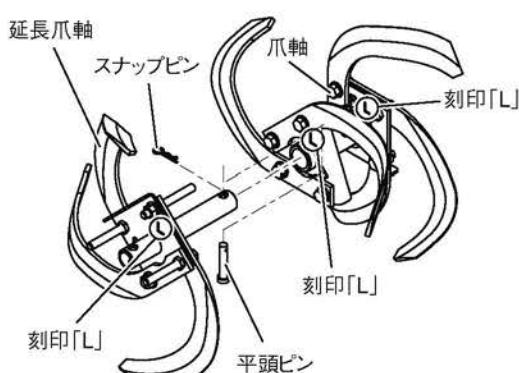


図 3-9

〈右側(R側)爪軸〉

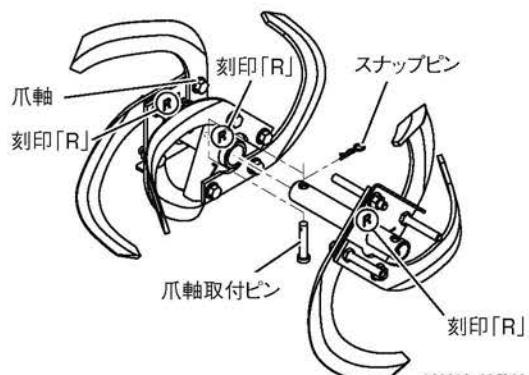


図 3-10

爪軸は、左右同時打ちになるように、取り付けてください。

サイドディスク

爪軸にサイドディスクを取り付けるときは、つぎの爪軸取付穴を使用します。(図 3-11)

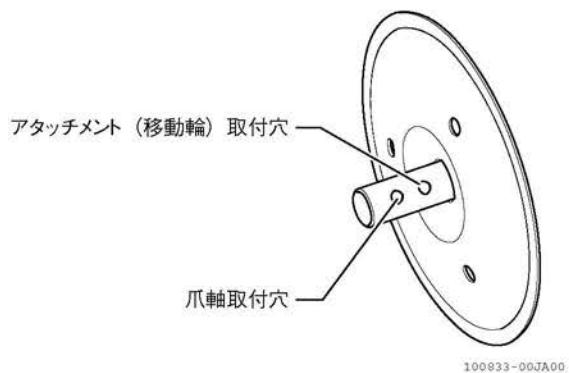


図 3-11

4章 お手入れのしかた

作業後の手入れについて

作業後の手入れのしかた

!**注 意**

- 爪の手入れ・洗浄は、必ずエンジンを停止し、手袋を着用して行ってください。守らないと、けがをするおそれがあります。
- リコイルスター部の吸気口は、エンジンの冷却風を吸い込むところです。きれいに掃除しないと、エンジンが過熱しやケドをするおそれがあります。

作業後はその日のうちに水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取って、注油箇所に適量注油してください。爪や爪軸、フェンダーに付着した土は、きれいに洗い取ってください。また、爪軸に草などが巻き付いたら、取り除いてください。(図 4-1)

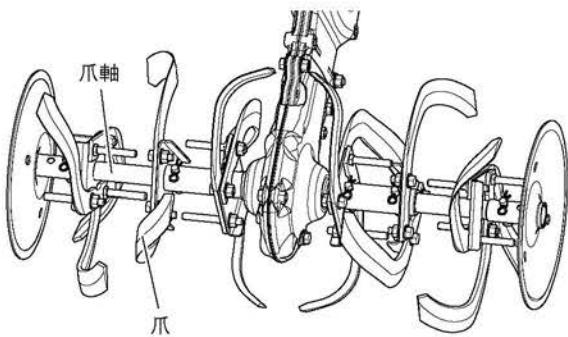


図 4-1 爪と爪軸

[重要]

- 水洗いするときは、エアクリーナーの吸気口やキャブレターに高圧の水が直接かかるないようにしてください。(図 4-2)
- リコイルスター部の吸気口に付いたゴミは、きれいに掃除してください。エンジンの出力低下や破損の原因になります。(図 4-2)

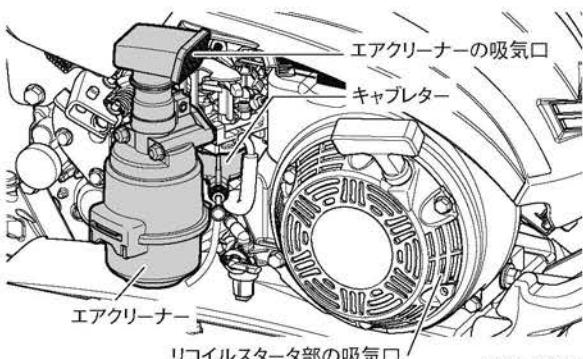


図 4-2 お手入れのしかた

各部の注油箇所

!**注 意**

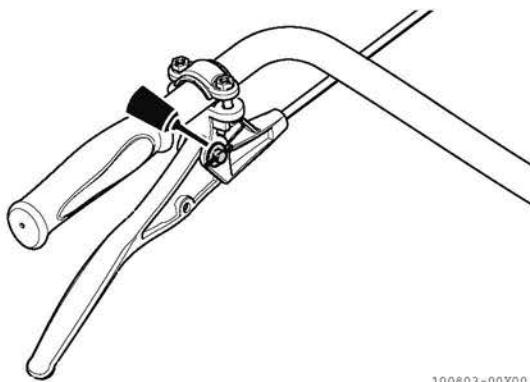
回転部へ注油するときは、必ずエンジンを停止して行ってください。守らないと、けがをするおそれがあります。

〈凡例〉

注油位置 :



■ 主クラッチレバー支点



100803-00X00

図 4-3 主クラッチレバー支点

■ テンションアーム支点(ベルトカバー内)

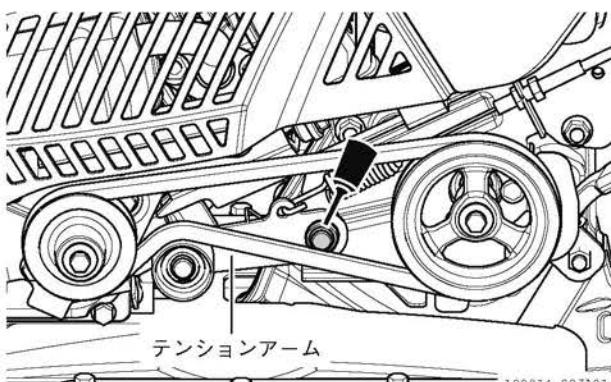


図 4-4 テンションアーム支点

■ 変速レバー支点 <-D、-S型式>

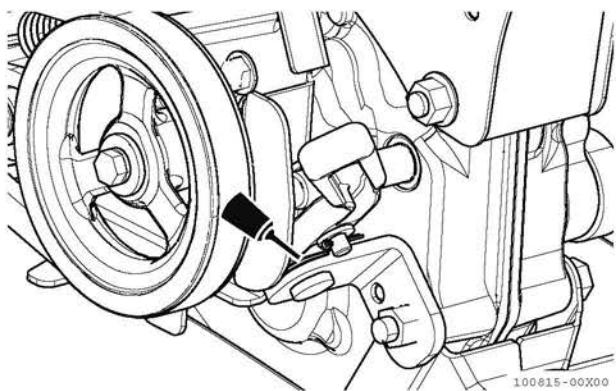


図 4-5 変速レバー支点 <-D、-S型式>

■ 後進アーム支点 <-B、-D、-S型式>

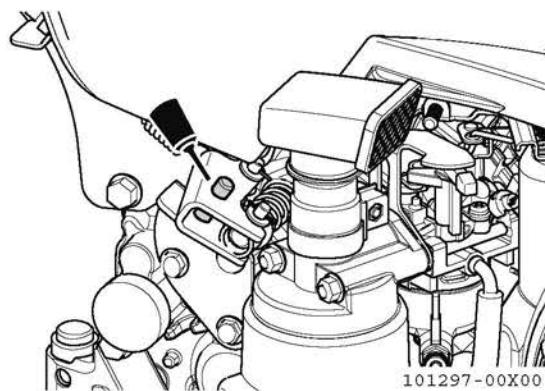


図 4-8 後進アーム支点 <-B、-D、-S型式>

■ 回転抵抗棒回動支点 <ITWUT仕様>

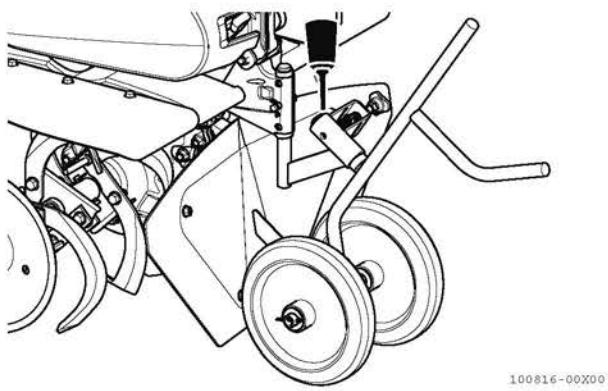


図 4-6 回転抵抗棒回動支点 <-D型式>

■ 移動輪回動支点 <IT仕様>

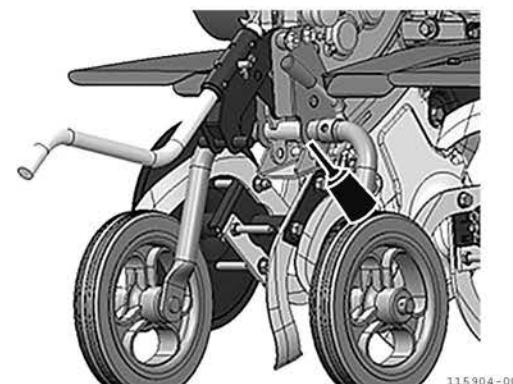


図 4-9 移動輪回動支点 <IT仕様>

■ プッシュアップステー支点 <-B、-D、-S型式>

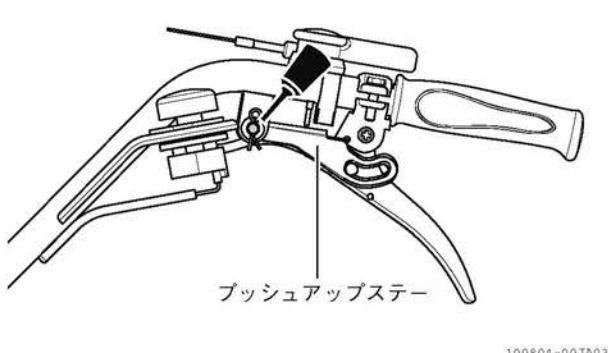


図 4-7 プッシュアップステー支点 <-B、-D、-S型式>

■ 抵抗棒回動支点 <IT仕様>

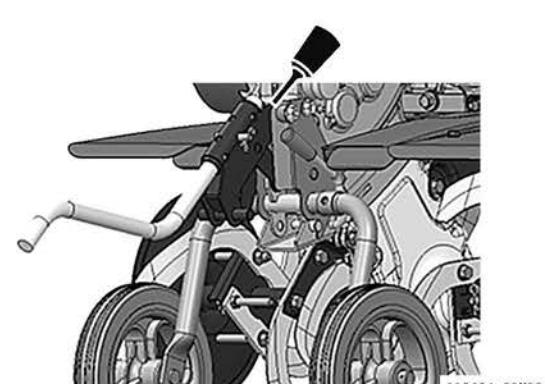


図 4-10 抵抗棒回動支点 <IT仕様>

点検・整備のしかた

点検・整備の前には、同梱の「安全に作業をするために ヤンマー管理機・ミニ耕うん機」をよくお読みください。

▲ 警 告

- 作業者および補助者は作業に適した服装をしてください。守らないと思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備時は、ミニ耕うん機を平たんで安定した場所に駐車し、エンジンを停止してください。また、手袋を着用してください。
- 室内で点検・整備をするときは、換気を十分に行ってください。守らないとエンジンの排出ガスで中毒を起こすおそれがあります。

▲ 注 意

- 回転部へ注油するときは、必ずエンジンを停止して行ってください。守らないとけがをするおそれがあります。
- 機械の摩耗などで角部が鋭利になっている場合、人が触れてけがをするおそれがあります。始業前に確認してください。また、鋭利部を見つけたらお買い上げいただいた特販店またはJAに修理をご依頼ください。
- ゴムホース類は、時間がたつと劣化します。2年ごとに交換してください。守らないと燃料が漏れて火災が起こり、けがをするおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、高温部分が十分に冷めてから行ってください。守らないとヤケドをするおそれがあります。
- カバーを外して点検・整備したときは、必ずカバーを元通りに取り付けてください。元通りに取り付けないと、回転部に巻き込まれたり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[重要]

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、お買い上げいただいた特販店またはJAにご相談ください。

定期点検・整備の時期について

定期点検や整備は、農閑期に行うと、農繁期にミニ耕うん機の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。ミニ耕うん機の整備不良による事故などを未然に防止するために、1年ごとに整備工場で定期点検整備を受け、各部の保安を確認してください。特に燃料パイプやゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常にミニ耕うん機を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

定期点検一覧表

表 4-1 定期点検一覧表

点検・調節箇所	点検・交換時期	内容	参照ページ
エンジンオイルの点検	作業時に点検 1回目:25時間目に交換 2回目以降:50時間ごとに交換	エンジンオイル(ガソリン用)SE級以上 ・夏季(20°C以上) … SAE30番 ・春・秋季…………… SAE20番 ・冬季(10°C以下) … SAE10W-30番	29
ミッションオイルの点検	50時間ごとに点検・補給	ミッションオイル90番	30
エアクリーナーの点検	作業前に点検	灯油で洗浄または交換・オイル量	31
燃料コシ器エレメント	作業前に点検	ストレーナカップ・フィルターの掃除	32
主クラッチレバー・ベルト	作業前に点検	「入」「切」の確認 クラッチ「入」時、指で押したときのベルトのたわみ量:10mm	32
後進レバー <-D, -S型式>	作業前に点検	レバー端のガタ:2~5mm	—
点火プラグ	50時間ごとに点検	火花ギャップ(電極すき間):0.7mm	36
エンジン取付ボルト	作業前に点検	増締め	34
ハンドル上下固定レバー	作業前に点検	ハンドルにガタつきがなく締めること	18
ハンドル左右固定レバー <-D型式>	作業前に点検	ハンドルにガタつきがなく締めること	18
耕うん爪取付ボルト	作業前に点検	増締め	34
電気配線の点検	作業前に点検	被覆はがれ・接点のゆるみ	37
燃料パイプおよび接合部	作業前に点検 パイプは2年ごとに交換	燃料パイプとその接合部の点検	37

燃料の点検・補給・排出のしかた

▲ 危 険

- 燃料補給時は火気厳禁です。
燃料は引火しやすいため、火災や爆発のおそれがあります。
 - ・ エンジンを必ず止めて燃料補給をしてください。
 - ・ タバコなどの火気を近づけないでください。
 - ・ こぼれた燃料は必ずふき取ってください。
- エンジン回転中やマフラーが熱い間は給油をしないでください。守らないと、火災が起り、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 規定量を守ってください。入れすぎると燃料キャップからガソリンがあふれ、こぼれたガソリンに引火して火災が起り、ヤケドや死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料補給をする前に、機械などの金属部分に触れて、身体の静電気を放電してください。守らないと、静電気の放電による火花が気化したガソリンに引火して火災や爆発が起り、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料は、燃料フィルターを通して補給してください。守らないと、ゴミなどが詰まり、燃料が漏れて火災が起り、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

▲ 警 告

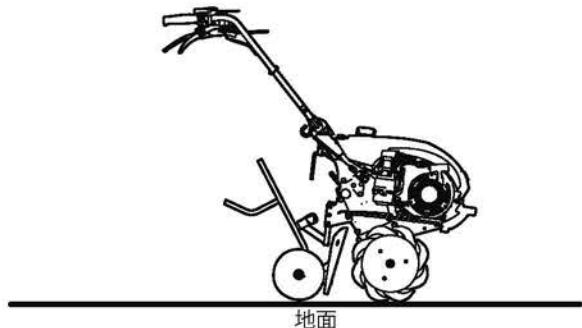
燃料の補給をしたときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと、ヤケドや火災を引き起こすおそれがあります。

【重要】

ガソリンは、絶対に河川や下水道などに流さないでください。環境汚染につながります。
ガソリンの処分は、特販店またはJAへご相談ください。

燃料の点検・補給のしかた

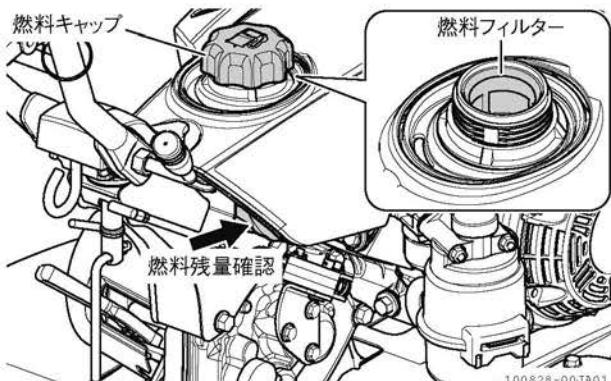
1. ミニ耕うん機を爪と抵抗棒または尾輪が接地した状態にします。(図 4-10)



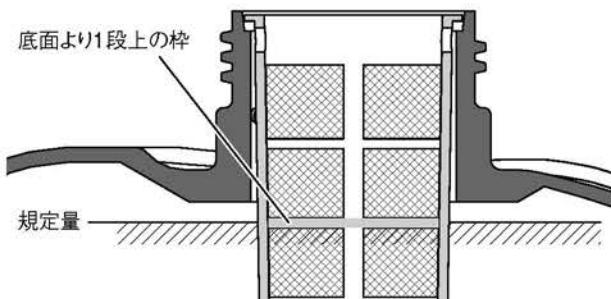
100817-00JA00

図 4-10 爪・移動輪接地状態

2. 燃料キャップを外し、燃料フィルターにゴミが詰まっているか点検します。(図 4-11)
3. 燃料タンク後部より、燃料の残量を確認し、不足している場合は、燃料キャップを外し、燃料の油面が燃料フィルター内側下段の枠(フィルター底面から 1 段上の枠)を超えないように補給します。この位置が規定量です。(図 4-11)



100828-00JA01



076009-00JA02

図 4-11 燃料の残量確認

4. 燃料キャップを締めます

【重要】

- 点検時に、燃料漏れのないことも確認してください。
- 自動車用無鉛ガソリン（レギュラーガソリン）を使用してください。
混合ガソリンや軽油・灯油、または粗悪なガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンの故障につながります。
- ガソリンは自然劣化します。ご購入後1カ月以上保管したガソリンは使用しないでください。
- 燃料を規定量以上入れた場合は、すみやかに規定量になるまで燃料を抜いてください。

燃料タンク内の燃料の抜きかた

1. 燃料コックレバーを「C（閉）」位置にします。
2. 燃料コシ器下部の四角部を、工具（二面幅（10mm））でゆるめて、燃料コシ器のカップを取り外します。（図4-12）

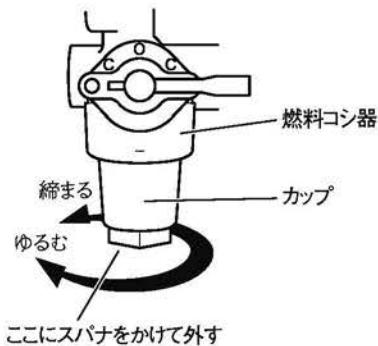


図4-12 燃料コシ器（カップ）

3. 燃料コシ器の下に容器を置き、燃料コックレバーを「O（開）」位置にします。燃料タンク内の燃料が抜けます。
4. 燃料が全部抜けたら、燃料コックレバーを「C（閉）」位置にし、燃料コシ器にカップを取り付けます。

キャブレター内の燃料の抜きかた

1. ドレンホースの下に容器を置きます。
2. ワンタッチキャブドレンを引いて、キャブレター内の燃料を抜きます。（図4-13）
3. 燃料が全部抜けたら、ワンタッチキャブドレンを放します。（図4-13）

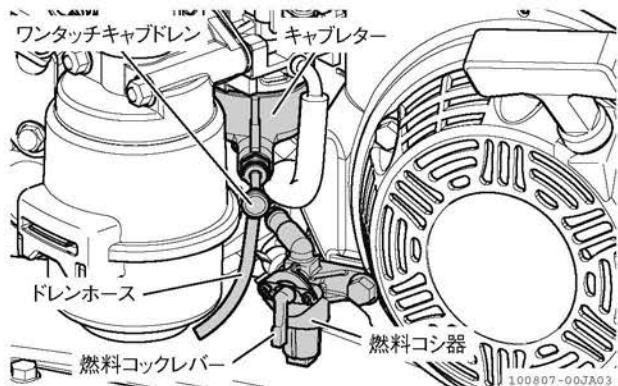


図4-13 燃料の抜きかた

オイルの点検・交換のしかた

▲ 注意

オイルの点検・交換・補給でこぼれたオイルは必ずふき取ってください。守らないと、滑って転倒しきがをするおそれがあります。

【重要】

オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。環境汚染につながります。廃油の処分は、特販店またはJAへご相談ください。

エンジンオイル

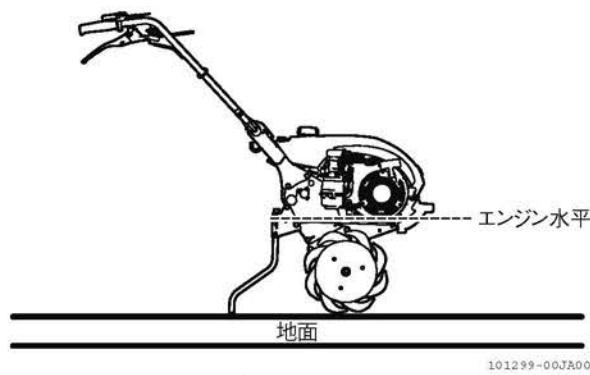
表 4-2 エンジンオイルの規定量

規定量	0.4 L
-----	-------

エンジンオイルの点検・補給・交換は、エンジンを水平な状態にしてから行ってください。(図 4-15)

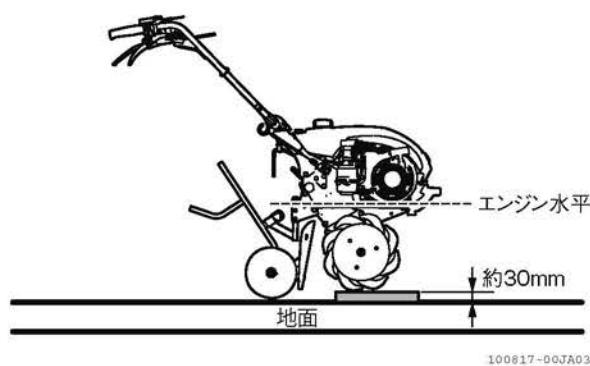
■ <ITWUT仕様以外>

抵抗棒(穴位置真ん中)と車軸を地面接地状態にします。



■ <ITWUT仕様>

爪下に約30mmの板を置き、移動輪を地面接地状態にします。

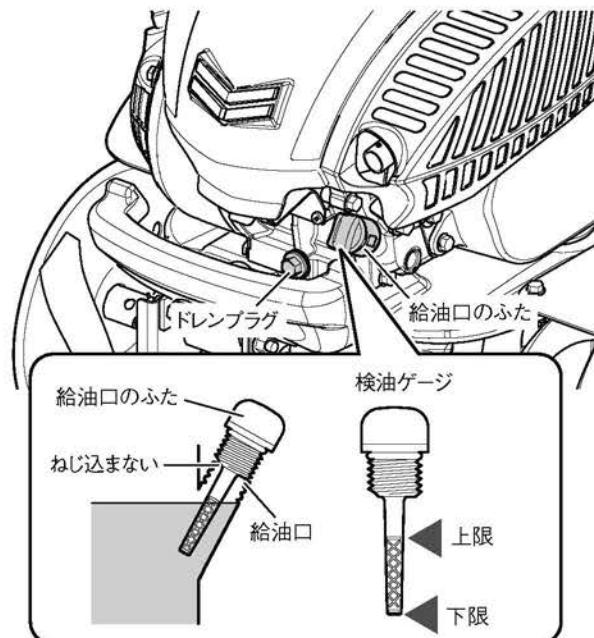


■ 点検のしかた

- 給油口のふたを外して、先端の検油ゲージのエンジンオイルをきれいにふきます。(図 4-16)
- 給油口のふたを給油口に差し込み(ねじ込まない)、もう一度抜き出します(図 4-16)

【重要】

エンジンオイルの量を確認するときは、給油口のふたを、ねじ込まずにいっぱいまで差し込んでください。



※給油口のふたと検油ゲージは一体式です。

100819-00JA02

3. エンジンオイルが検油ゲージの上限と下限の間にあることを確認します。

4. 点検後、給油口にふたをねじ込みます。

【参考】

点検時、エンジンオイル漏れのないことも確認してください。

■補給のしかた

エンジンオイルが不足している場合は、油面が検油ゲージの上限の位置になるまで、給油口から補給します。

【重要】

- 補給するエンジンオイルは、必ず指定オイルを使用してください。

表 4-3 エンジンオイルの等級

エンジンオイル(ガソリンエンジン用)SE級以上
・夏季(20 °C以上)…SAE30番
・春・秋季…………… SAE20番
・冬季(10 °C以下)…SAE10W-30番

- エンジンオイルを規定量以上入れた場合は、すみやかに規定量になるまでエンジンオイルを抜いてください。

■交換のしかた

1. エンジン側面にあるドレンプラグの下に、古いエンジンオイルを受ける容器を置きます。
2. ドレンプラグを工具で外します。古いエンジンオイルが流れ出できます。(図 4-17)

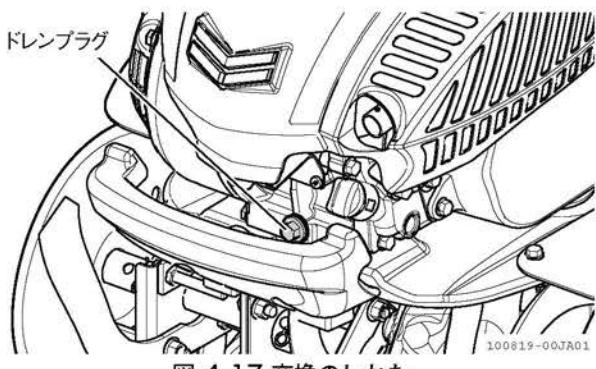


図 4-17 交換のしかた

【参考】

給油口のふたを外すと、エンジンオイルが抜けやすくなります。

3. 古いエンジンオイルが抜けきったら、ドレンプラグを元通りに取り付けます。
4. 給油口からエンジンオイルを規定量給油します。

【参考】

エンジンオイルが完全に抜けきらず、規定量給油できない場合があります。こぼれないように給油してください。

5. 給油口のふたを元通りに取り付けます。

走行ミッションオイル

表 4-4 ミッションオイルの規定量

規定量	1.0 L
-----	-------

ミッションオイルの点検・補給をするときは、必ず燃料コックを「C(閉)」位置にしてから行ってください。

■点検のしかた

抵抗棒を外し、ヒッチ下に 185mm の台を敷いた状態で、ミッションオイルが給油口の下面にくることを確認します。

給油口の下面までミッションオイルがあれば規定量です。(図 4-18)

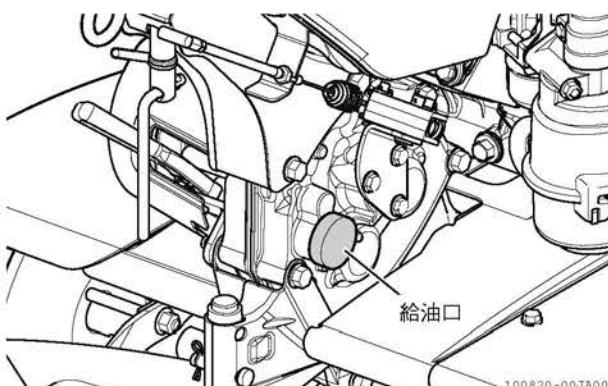


図 4-18 走行ミッションの給油口

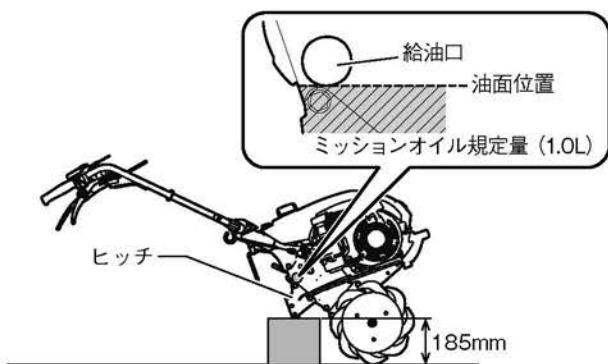


図 4-19

【参考】

点検時にオイル漏れのないことも確認してください。

■補給のしかた

ミッションオイルが不足している場合は、給油口から給油口の下面まで補給します。

表 4-5 ミッションオイルの種類

ミッションオイル90番

【重要】

ミッションオイルを規定量以上入れた場合は、すみやかに規定量になるまでミッションオイルを抜いてください。

■交換のしかた

- ミニ耕うん機を安定させて行います。
- 爪軸を外し、ミッションケースの下部にあるドレンプラグの下に、古いミッションオイルを受ける容器を置きます。(図 4-20)

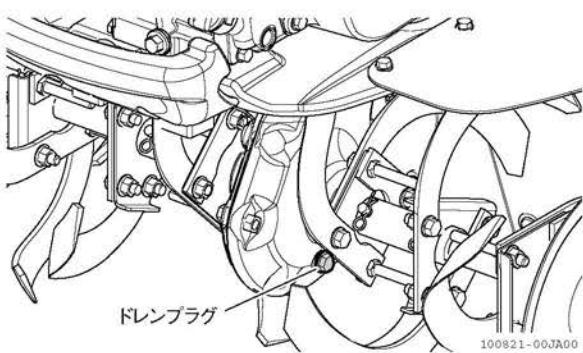


図 4-20 交換のしかた

- ドレンプラグを工具で外します。
古いミッションオイルが流れ出できます。

【参考】

- 給油口のふたを外すと、ミッションオイルが抜けやすくなります。
 - 走行ミッションオイルが温かいうちに抜くと、容易にミッションオイルを抜くことができます。
- 古いミッションオイルが抜けきったら、ドレンプラグを元通りに取り付けます。
 - 給油口からミッションオイルを規定量給油します。
 - 給油口のふたを元通りに取り付けます。

【参考】

ミッションオイルが完全に抜けきらず、規定量給油できない場合があります。こぼれないように給油してください。

エアクリーナーの洗浄のしかた

⚠ 警 告

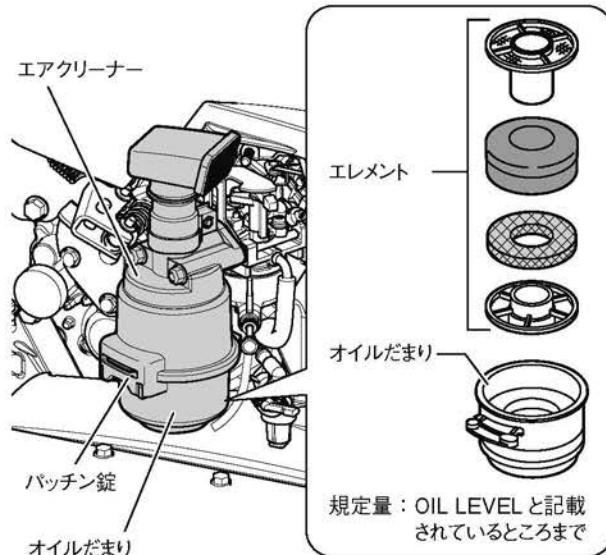
エアクリーナーエレメントの掃除は運転前に行ってください。運転直後は掃除をしないでください。守らないと、パッキン錠などが高温になって、ヤケドをするおそれがあります。

エアクリーナーを汚れたまま使用すると、エンジンの出力低下や、故障の原因になります。つぎの要領で、エアクリーナーを定期的に洗浄してください。

- オイルだまりを固定している、パッキン錠を解除して、オイルだまりを外します。(図 4-21)
- エレメントのスポンジ部を外し、灯油で洗って乾燥させます。
- スポンジ部はエンジンオイルに浸し、硬くしづらから取り付けます。

【重要】

エレメントの外装部品は、灯油で洗浄しないでください。



100806-00JA07

図 4-21 エアクリーナー

- オイルだまりはよく洗浄し、新しいエンジンオイルを規定量入れます。
- エレメントの上下方向を間違えないようにエアクリーナーへ入れ、オイルだまりを元通りに取り付けます。(図 4-21)

燃料コシ器の掃除のしかた

⚠ 警 告

- 燃料コシ器の取り付け後、漏れがないか点検してください。
- ガソリンが周りに付着した場合、きれいにふき取り、完全にかわかしてからエンジンを始動してください。

燃料コシ器は、燃料内の小さなゴミをこし取るもので、つぎの要領で、定期的に掃除してください。

1. 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。(図 4-22)

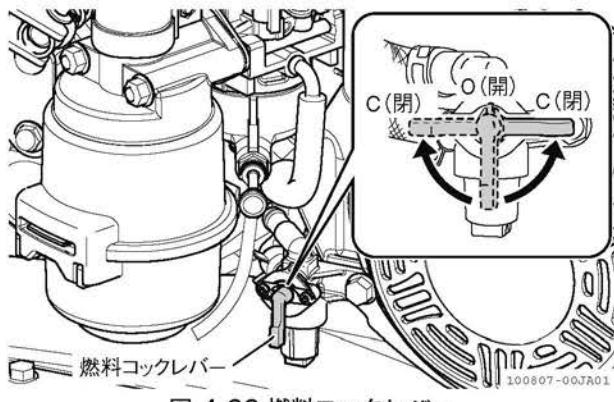


図 4-22 燃料コックレバー

2. 燃料コシ器下部の四角部を、工具(二面幅(10mm))でゆるめます。(図 4-23)
3. 燃料コシ器内の水やゴミを取り除き、フィルターネットの目詰まりなどを灯油で掃除します。
4. フィルターネット、パッキン、ストレーナーカップの順に元通りに取り付けます。(図 4-23)

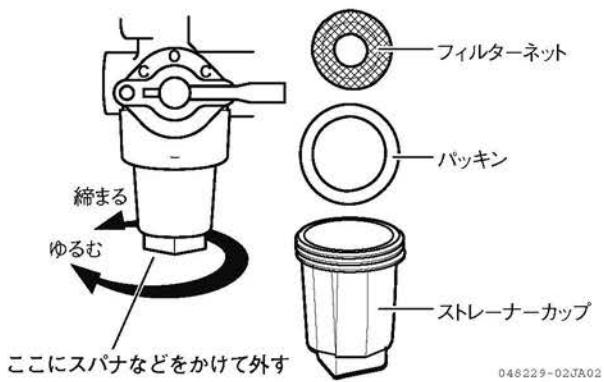


図 4-23 燃料コシ器

【参考】

フィルターネット、パッキンは、燃料コシ器の上部に入っています。

主クラッチレバーの点検・調整のしかた

⚠ 警 告

ベルトカバーを外した状態で、エンジンを始動しないでください。けがをするおそれがあります。

■ 点検のしかた

1. ベルトカバーを外します。(図 4-24)

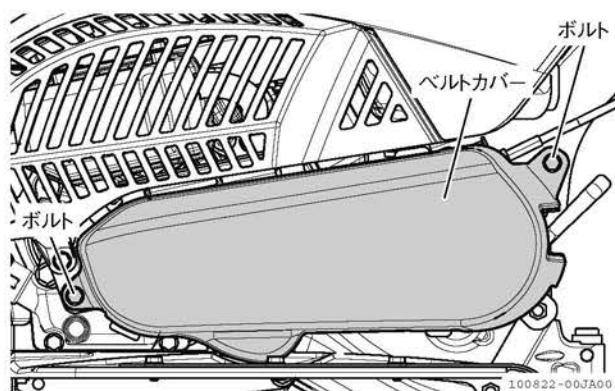


図 4-24 ベルトカバー

2. Vベルトに亀裂や破損などがないことを確認します。亀裂や破損などがある場合は交換します。
3. 主クラッチレバー「切」位置にして、主軸ブーリを手で少し回しVベルトと主軸ブーリの連れ回りがないことを確認します。(図 4-25)

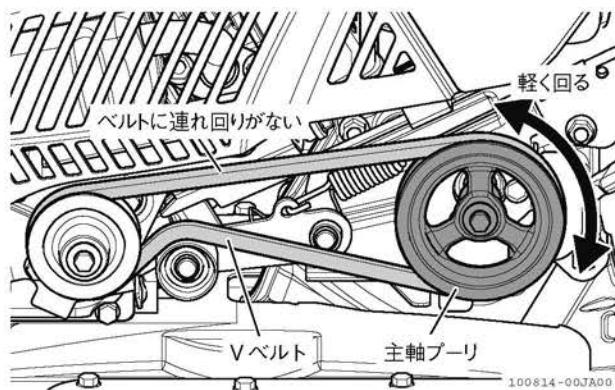


図 4-25 点検のしかた

4. 主クラッチレバー「入」位置でVベルトの中央部を指で押したときのたわみが約10mmになっているか確認します。(図4-26)

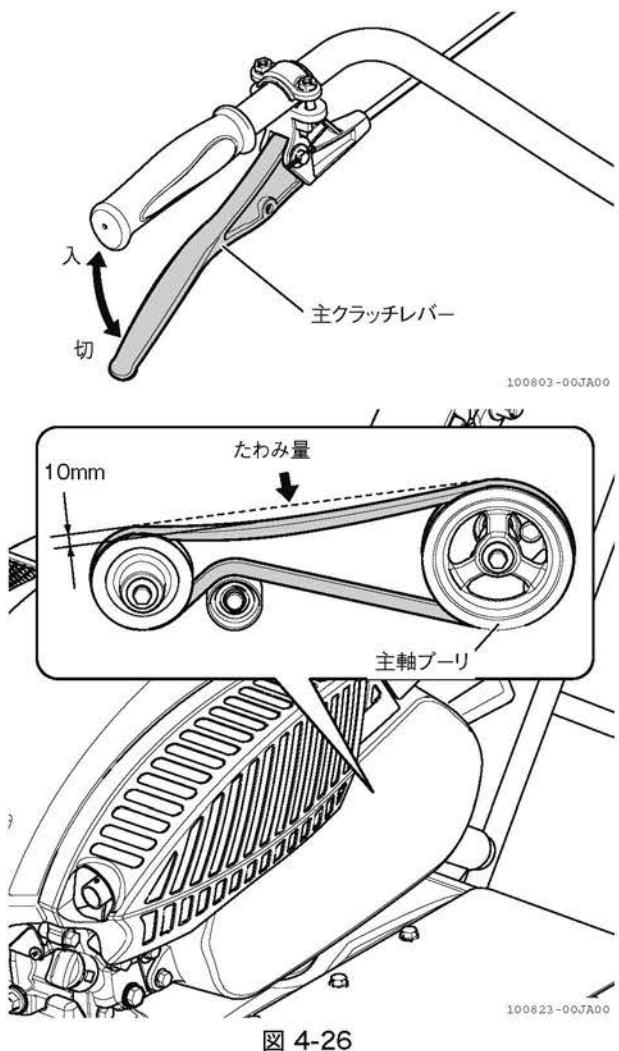


図4-26

■調整のしかた

ベルト調整が必要な場合は、アジャスターで調整します。(図4-27)

・連れまわりする場合

アジャスターでねじ部の出代が多くなる方に調整します。

・主クラッチレバー「入」で、Vベルトのたわみが10mm以上の場合

アジャスターでねじ部の出代が少なくなる方に調整します。調整しても、たわみが10mmにならない場合は、Vベルトを交換してください。

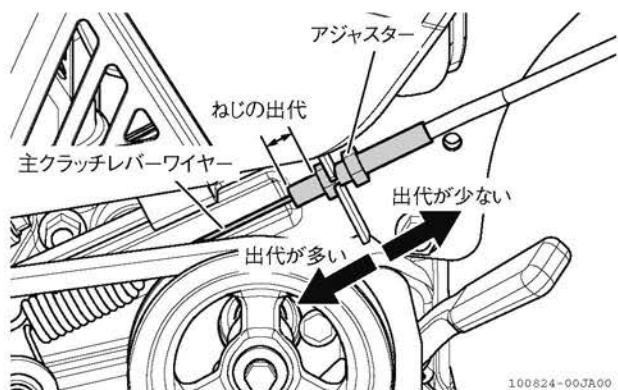


図4-27 主クラッチレバーアジャスターの調整

■点検調整後

1. ベルトカバーを元通り取り付けてください。
2. ほ場内で、アクセルレバー「低」の位置にし、クラッチの「入」「切」が確実に動作することを確認してください。

後進レバーの点検・調整のしかた (-B、-D、-S型式)

■ 点検のしかた

1. ベルトカバーを外します。
2. 主軸ブーリを手で回し、爪が回ることを確認します。
3. 後進レバーを握らない状態で、後進レバー端に2mm～5mm程度の遊びがあることを確認します。(図4-28)

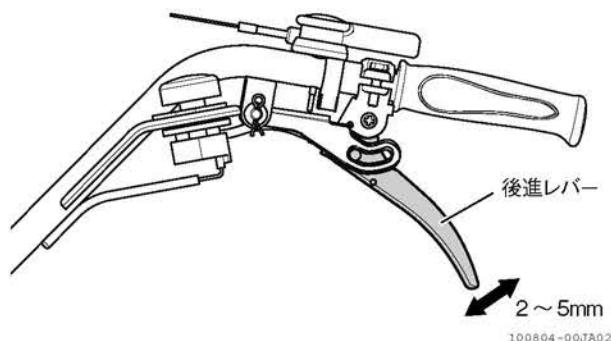


図4-28 後進レバーの点検のしかた

■ 調整のしかた

- ・ レバーの遊びがない場合
アジャスターでねじの出代が多くなる方に調整します。(図4-29)
- ・ レバーの遊びが大きい場合
アジャスターでねじの出代が少なくなる方に調整します。(図4-29)

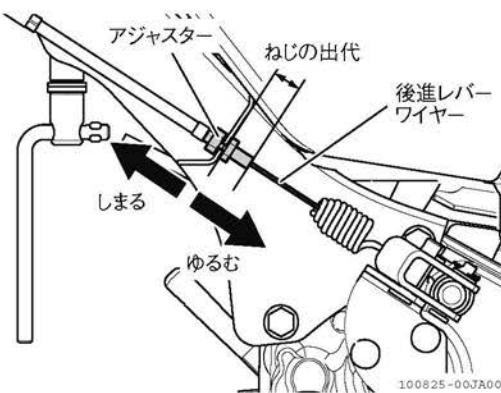


図4-29 後進レバーの調整のしかた

■ 点検調整後

1. ベルトカバーを元通り取り付けてください
2. ほ場内で、アクセルレバー「低」の位置にし、前進、後進が確実に動作することを確認してください。

増締めするところ

■ ハンドル上下固定レバー・

ハンドル左右固定レバー



図4-30 ハンドル上下固定レバー・ハンドル左右固定レバー

■ 耕うん爪取付ボルト

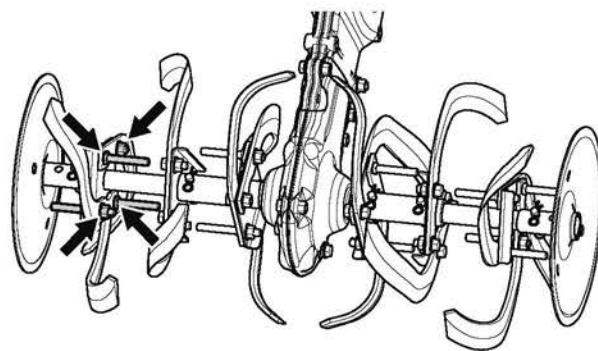
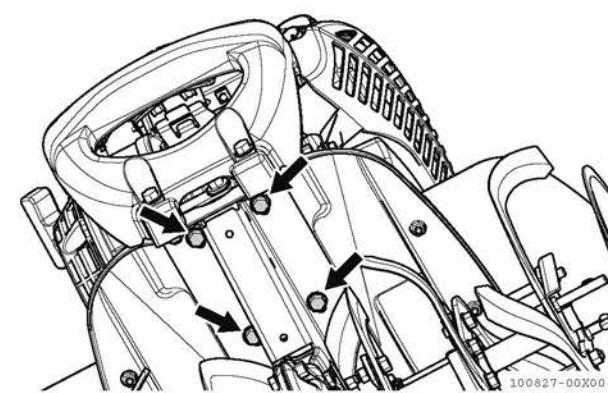


図4-31 耕うん爪取付ボルト

■ エンジン取付ボルト



※ミニ耕うん機下側から見た状態です。

図4-32 エンジン取付ボルト

耕うん爪の点検・交換のしかた

▲ 注意

爪の手入れや交換をするときは、厚手の手袋を着用してください。守らないと、思わぬけがをするおそれがあります。

効率のよい作業をしていただくために、耕うん爪は早めに交換してください。

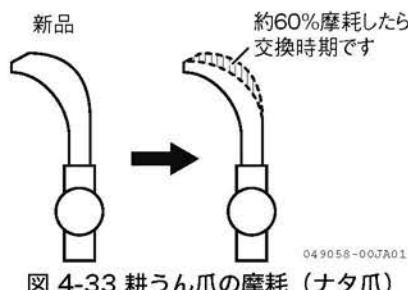
耕うん爪の点検のしかた

■ 点検のしかた

- 耕うん爪の損傷・曲り、および摩耗を点検します。
- 取付部のガタがないか点検します。

■ 耕うん爪の摩耗の見かた

耕うん爪の幅が60%摩耗したら交換時期です。
(図 4-33)

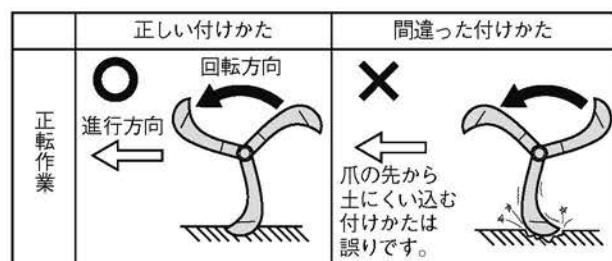


耕うん爪の交換のしかた

▲ 注意

爪の向きと刃面の方向を間違えないように注意してください。思わぬけがをすることがあります。

表 4-6 爪の取付方向

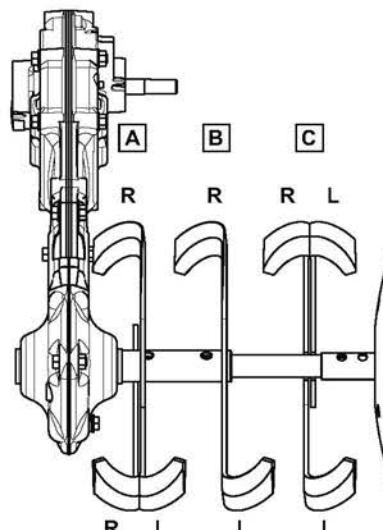
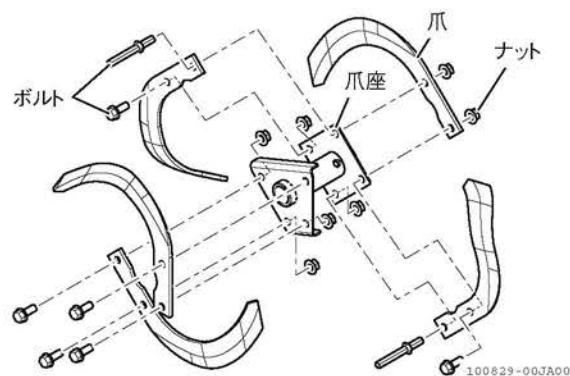


049913-02JA00

【重要】

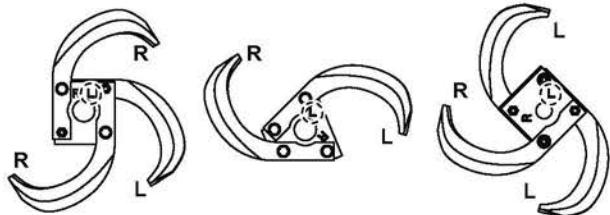
耕うん爪を取り付けるときは、爪の種類や本数、爪の向き、回転方向に注意して、正しく取り付けてください。間違って取り付けると、故障の原因になります。

- 耕うん爪の取付ボルトを外して、爪を交換します。(図 4-34)



〈左側爪軸を外側（ディスク側）から分解してみた図〉

- | | | |
|--|-----------------------------|---|
| A | B | C |
| ・手前側にボルト（2個）/ からまん棒（2個）
・奥側にナット（4個） | ・手前側にボルト（4個）
・奥側にナット（4個） | ・手前側にナット（2個）/ からまん棒（2個）
・奥側にナット（2個）/ からまん棒（2個） |



101301-00JA00

図 4-34 爪交換

2. 交換後は取付ボルト、取付ナットを締めます。

【参考】

爪の本数については、21 ページの「爪・爪軸のセットのしかた」を参照してください。

4

お手入れのしかた

⚠ 警 告

点火プラグの点検・掃除・交換は、運転前に行ってください。運転直後は点検・掃除・交換をしないでください。高温部でヤケドをするおそれがあります。

電極部がすすで黒ずんでいたり、損耗または破損している点火プラグを使用すると、エンジンの不調や排ガス不良になります。

定期的に点火プラグの点検・掃除をしてください。

■ 点検のしかた

1. ボンネットのねじを外します。（図 4-35）

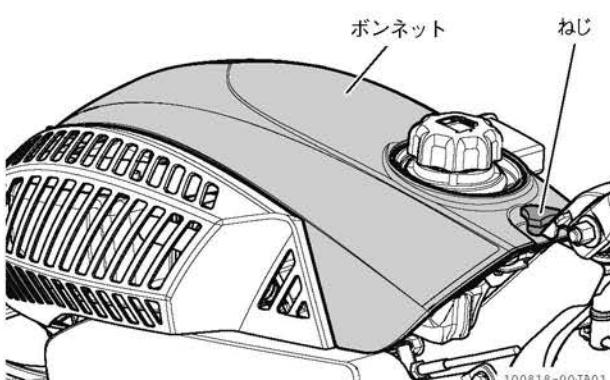


図 4-35 ボンネット

2. ボンネットの前部はめ込み部を支点にして前側に開くようにして外します。（図 4-36）

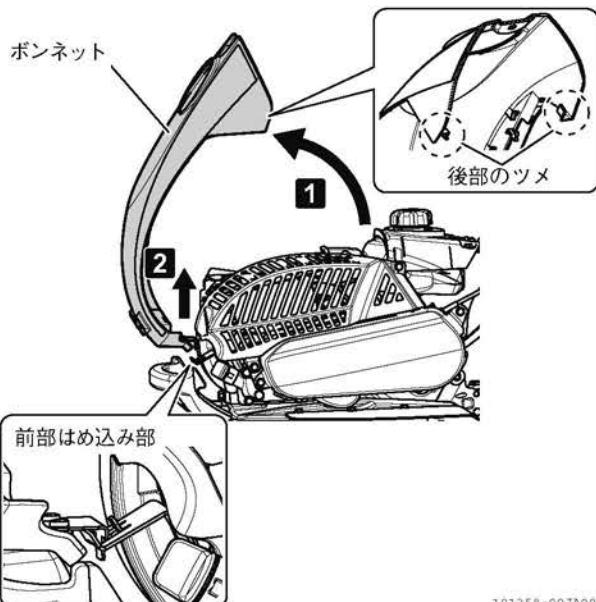


図 4-36 ボンネット

3. プラグコードを外します。（図 4-37）

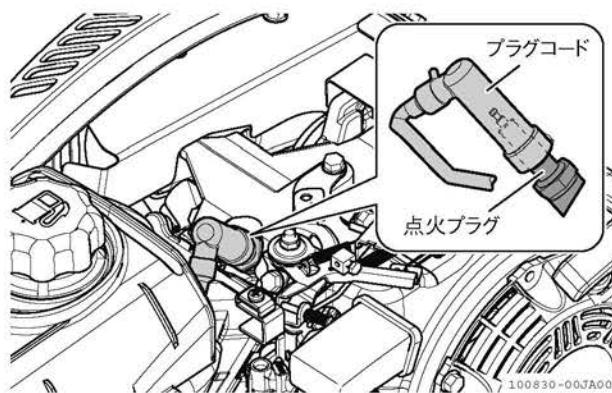


図 4-37 点火プラグ・プラグコード

4. 付属のプラグレンチを使用して点火プラグをエンジンから外します。プラグレンチはお手持ちのドライバーなどと合わせてご使用ください。（図 4-38）

5. 点火プラグの電極部の焼け具合、損耗の程度を点検します。

6. 火花ギャップ（電極すぎ間）を0.7mmに調整します。（図 4-39）

7. 点火プラグを元通りに取り付け、プラグコードを確実に差し込みます。

8. ボンネットを取り付けるときは、後部のツメを本機側に確実にはめ込んで取り付けます。（図 4-36）

【重要】

点火プラグを取り付けるときは、ねじ山をつぶさないように、はじめに手で締め込んでから、プラグレンチで締め付けてください。(図 4-38)

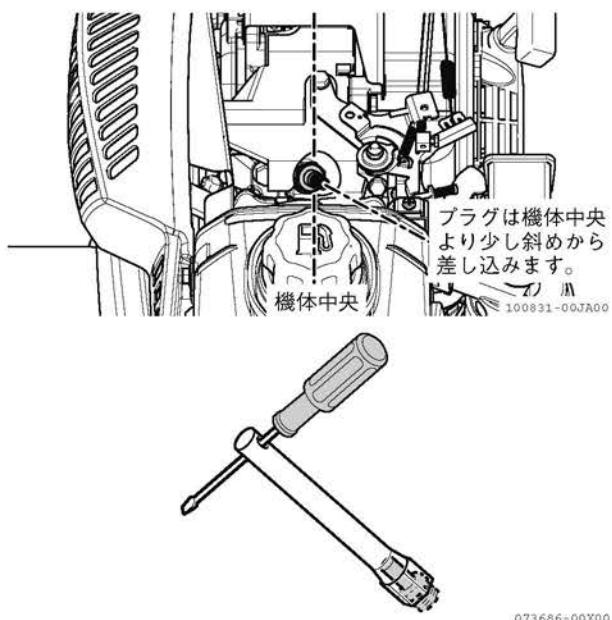


図 4-38 プラグレンチとドライバー

■掃除のしかた

電極部をワイヤーブラシなどで掃除します。

■交換のしかた

電極部が損耗または、破損したものは新品と交換します。点検のしかたの要領で点火プラグを外し、交換してください。(図 4-37、図 4-39)

表 4-7 点火プラグ

標準点火プラグ	NGK製(BP6HS)
---------	-------------

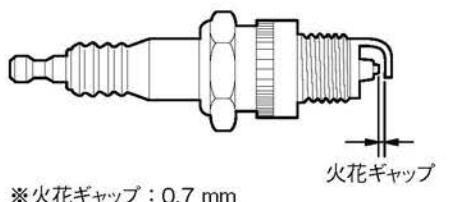


図 4-39 火花ギャップ

燃料パイプ・電気配線の点検のしかた**▲注意**

ゴムホース類は、時間がたつと劣化します。2年ごとに交換してください。守らないと燃料が漏れて火災やヤケドを負うおそれがあります。

燃料パイプの傷や接続部の締付バンドのゆるみ、燃料漏れがないことを確認します。

また、電気配線が他の部品に接触して、被覆のはがれや傷がないこと、接続部のゆるみがないことを点検します。

燃料パイプや電気配線が傷んでいる場合は、お買い上げいただいた特販店またはJAなどで修理してください。傷んでいなくても、2年ごとに交換するようにしてください。

不調診断のしかた

表 4-8 不調診断のしかた

状況	この確認をしてください	処置	参照ページ
エンジンが始動しない場合	燃料タンクに燃料が入っていますか。	燃料を補給してください。	27
	エンジンの始動手順が間違っていますか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。	14
	燃料コックレバーが「C(閉)」位置になっていますか。	燃料コックレバーを「O(開)」位置にしてください。	14
	燃料に水が入っていないですか。	燃料コシ器に水がたまっている場合は、燃料コシ器を外して、水抜きをしてください。	32
	ご購入後1カ月以上経過したガソリンを使用していませんか。	燃料タンク、キャブレター内のガソリンを抜き、新しいガソリンを補給してください。	27
	点火プラグが悪くなっていますか。	点火プラグを外して、火であぶるか、かわいた布でよく乾燥させてください。 すでに汚れている場合は、電極部を掃除してください。	36
	NGK製(BP6HS) 火花ギャップ	点火プラグの火花ギャップを調節してください。または、新しい点火プラグと交換してください。それでも始動しない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。	
各部に振動が多い場合	各リード線が外れていませんか。	コネクタ、リード線の接続を点検してください。	—
	エンジンが振れるではありませんか。	エンジン取付ボルトを強く締め直してください。	34
	ハンドルが振れるではありませんか。	ハンドル上下固定レバー、ハンドル左右固定レバーを増し締めしてください。	34
エンジンの力がない場合	エアクリーナーにゴミが詰まっていますか。	エレメントを外し、きれいに掃除するか交換してください。	31
	エンジンオイル量が少なくなっていますか。	エンジンオイルを補給してください。また、古くなっている場合は、新しいエンジンオイルと交換してください。	29
	エンジンの回転は上がりますか。	アクセルレバー取り付け位置が動いていたら、元の位置に確実に固定してください。エンジン回転が上がらない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAに相談してください。 アクセルワイヤーのセット位置を変えてください。エンジン回転が上がらない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAに相談してください。	—
	エンジンの圧縮がないではありませんか。	点火プラグを締めてください。それでも改善しない場合は、ピストンリングなどの摩耗も考えられます。お買い上げいただいた特販店、またはJAに相談してください。	36
主クラッチレバーを「入」位置にしても走行しない場合	ベルトが伸びて、スリップしていますか。	ベルトの張りを確認してください。	32

5章 保管のしかた

保管するときは

▲ 注意

- ミニ耕うん機を高いところに保管しないでください。また、ハンドル部を利用してミニ耕うん機を吊り下げる保管もしないでください。落下するおそれのある保管方法は絶対にしないでください。
- 格納（保管）は、ミニ耕うん機が倒れたり動いたりしない平たんで安定した場所に格納してください。
- ミニ耕うん機にカバーをして保管する場合は、耕うん爪などの突起物でカバーをしないように、壁など人が近づかない方向に向けて保管してください。
- エンジンが高温のときは、本体カバーをかけないでください。エンジンが冷えたことを確認してからかけてください。火災の原因になります。

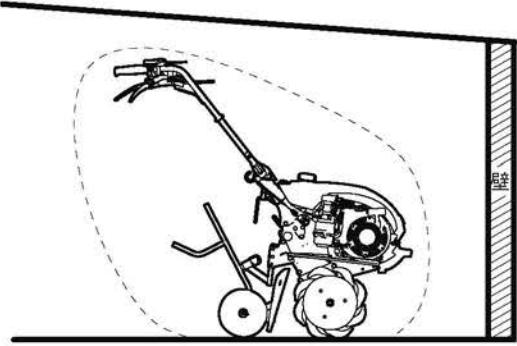


図 5-1 保管方法

ミニ耕うん機は、直射日光や雨水のあたらない、風通りのよい屋内でスタンド、爪を接地して保管します。雨水などがエアクリーナーやキャブレターにかかると、エンジンの故障などにつながります。

【参考】

ハンドルは倒して保管することができます。(図 5-2)

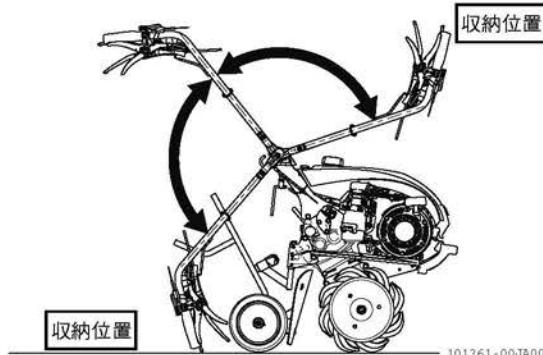


図 5-2 ハンドル収納位置

特に長期保管するときは (1カ月以上)

【重要】

1カ月以上ミニ耕うん機を使用しない場合は、必ず燃料タンク、キャブレター、燃料コシ器の中の燃料を完全に抜き取ってください。
抜き取らないと、エンジン不調の原因になります。

保管のしかた

エンジンの手入れ

1. 点火プラグを外します。
(36 ページの「点火プラグの点検・掃除・交換のしかた」を参照してください。)
2. プラグの取り付いていた穴からガソリンエンジン用のエンジンオイルを約2~3 cc入れます。
3. 点火プラグを外すときの逆の手順で取り付けます。

【重要】

点火プラグを取り付けるときは、ねじ山をつぶさないように、はじめに手で締め込んでから、プラグレンチで締め付けてください。

4. リコイルスタータを軽く引いて、重たくなったところ（圧縮位置）で止めます。
5. ボンネットを外すときの逆の手順で取り付けます。

燃料の抜き取り

燃料タンク・キャブレター・燃料コシ器の中の燃料を完全に抜き取ります。

作業方法は、27 ページの「燃料の点検・補給・排出のしかた」を参照ください。

車両への積み・降ろしのしかた

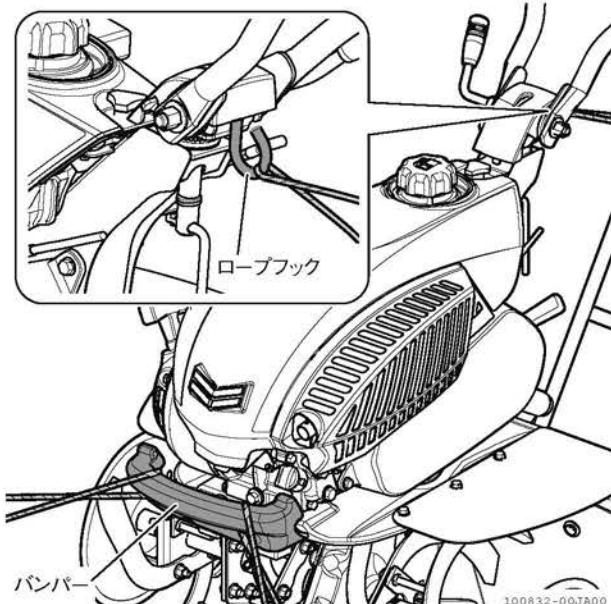
▲ 危 険

ワゴン車や車のトランクルームなどの密閉空間になる状態で機械を運搬する場合は、燃料タンク内の燃料を完全に抜き取ってから積み込んでください。

トラックでの運搬時は、燃料タンク内のガソリンの量を、積み降ろしに必要な最低量とし、残りのガソリンは別に用意しておいた、法で定められたタンクに移して運搬してください。

守らないと、燃料が気化し室内にガソリン臭が充満したり、燃料漏れが発生して火災が起り、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

車両の荷台へロープで固定する場合は、バンパーとロープフックにロープをかけてください。(図 6-1)



【重要】

- 車両に積み込む場合は、アルミニウム板を使用しないでください。
- 持ち上げる場合は、バンパーとハンドルを持ち、2人以上で持ち上げてください。
- 車両の荷台ヘロープで固定する場合は、爪、抵抗棒を接地状態にして、ロープをかけてください。
- 輸送時は、燃料コックレバーを「C (閉)」の位置にしてください。

エンジンの故障の原因になります。

主要諸元

表 7-1 主要諸元

名称		ヤンマーミニ耕うん機					
型式名		ヤンマー K0041	ヤンマー K0042	ヤンマー K0043			
販売型式名		YK300QT	YK300QT-B	YK300QT-D	YK300QT-S		
機体寸法	全長 (mm)	1265					
	全幅 (mm)	620					
	全高 (mm)	1030					
機体質量 (kg)		37	38	45	43		
エンジン	型式名	GB101					
	種類	空冷4サイクルOHVガソリンエンジン					
	総排気量 (L{cc})	0.098{98}					
	定格出力/回転速度 (kW{PS}/min ⁻¹)	1.4{1.9}/1600					
	最大出力 (kW{PS})	2.2{3.0}					
	エンジンオイル規定量 (L)	0.4					
	エアクリーナー	オイルバス式					
	点火プラグ	BP6HS(NGK製)					
	始動方式	リコイルスター式					
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン(レギュラーガソリン)					
走行部	燃料タンク容量(規定量) (L)	1.2					
	走行変速段数 (段)	前進1	前進1・後進1	前進2・後進1			
	主クラッチ形式	ベルトテンション式					
車軸部	ミッションオイル量 (L)	1.0					
	駆動方式	センタードライブ					
	車軸回転数	前進1速 (min ⁻¹)	113.0		72.0		
		前進2速 (min ⁻¹)	—	—	113.0		
		後進1速 (min ⁻¹)	—	32.0			
	爪回転外径 (mm)	φ300					
	耕幅 (mm)	390・550					
	車軸形状	形 状	丸軸(ピン穴φ8.5)				
		全 長 (mm)	186				
		ピン穴位置 (mm)	152				
		軸 径 (mm)	φ20				
ハンドル	爪形状	ナタ爪					
	耕深調整	抵抗棒		〈ITWUT仕様〉 ダブル抵抗棒 〈IT仕様〉抵抗棒	抵抗棒		
	上下調節	菊座式					
	左右回動調節	—		菊座式	—		
回転式移動輪付き簡易うね立て器		無し		有り(ITWUT仕様のみ)	無し		

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

8章 廃棄物の処理について

廃棄をするときは

廃棄物を間違った方法で処分すると、環境汚染につながります。このミニ耕うん機に使用されている、燃料・オイル・フィルター・ベルト・ホースなどは、正しく処分してください。

ミニ耕うん機の廃棄

【重要】

ミニ耕うん機を廃棄するときは、お買い上げいただいた特販店またはJA、もしくは廃棄物処理業者に依頼してください。法律に違反する行為は絶対にしないでください。詳しくは、お住まいの自治体の指導に従ってください。

廃油の処理

オイル交換で出た廃油は、河川や下水道、溝、空地などに絶対に捨てないでください。環境汚染につながります。

廃油の処分については、お買い上げいただいた特販店またはJAまでご相談ください。

ホース類の処理

ホース類の合成ゴム製品は、放置したり、捨てたりせず、お買い上げいただいた特販店またはJAへお渡しください。資源としてリサイクルされます。

9章 サービスと保証について

保証書は大切に保管してください

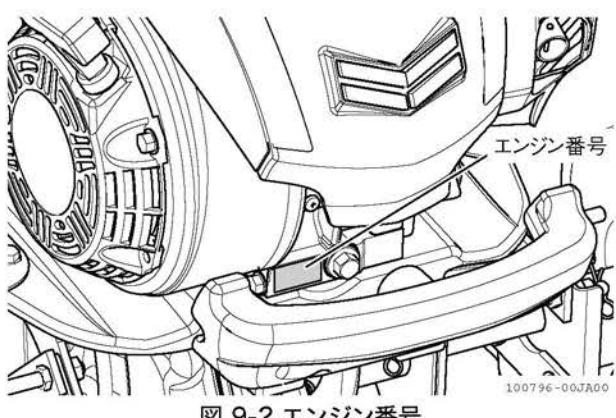
「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要になるものです。お読みになったあとは、大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

ミニ耕うん機の調子が悪いときは、38 ページの「不調診断のしかた」に従って、点検・処置してください。それでもなお不具合があるときは、つぎの「ご連絡していただきたい内容」を明確にして、お買い上げいただいた特販店またはJAまでご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- 販売型式名と製造番号
- エンジンの場合は、エンジンの番号
- ご使用状況は?
(車速やどんな作業をしていたときに)
- どのくらい使用されましたか?
(約□□アールまたは約□□時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお伝えください。



補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後 9 年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については、納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

メーカー純正部品・オイルについて

純正部品・純正オイルは、厳密なテストを重ね、厳しい品質検査に合格したもので、安心して使用していただけます。

部品・オイルを交換する場合には、必ず純正部品・純正オイルをご指定ください。



改造について

勝手な改造はしないでください。安全性・性能・耐久性の保証の対象外となります。

10章 索引

英数字

QR コード	4
あ	
アクセルレバー	9
い	
移動輪	10
え	
エアクリーナー	13, 31
エンジンオイル	29
エンジンスイッチ	9
エンジン番号	1
か	
回転式移動輪	10
き	
機体銘板	1
け	
検油ゲージ	29
こ	
耕うん爪	35
後進レバー	9
し	
主クラッチレバー	9
た	
ダブル抵抗棒	11
ち	
チョークレバー	12
つ	
爪	21
て	
抵抗棒	11
点火プラグ	36, 37
と	
ドレンプラグ	30, 31
ドレンホース	12
ね	
燃料キャップ	27
燃料コシ器	28, 32
燃料コックレバー	12, 14
は	
ハンドル左右固定レバー	10
ハンドル上下固定レバー	10
バンパー	40
ひ	
火花ギャップ	36, 37

へ

ベルトカバー	32
変速レバー	10
み	
ミッションオイル	30
り	
リコイルスタータ	15
ろ	
ロープフック	40
わ	
ワンタッチキャブドレン	12, 28

11章 部品リスト(部品早見表)

主要消耗部品

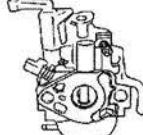
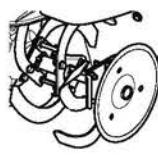
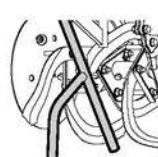
表 11-1 主要消耗部品

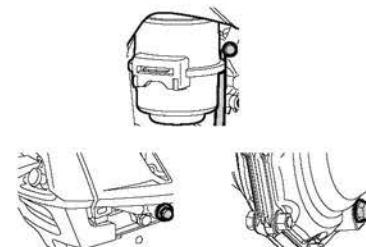
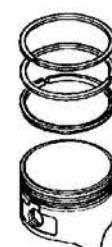
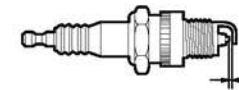
品名	コードNo.	適用型式			
		YT300QT	YT300QT-B	YK300QT-D	YK300QT-S
Vベルト(HP2SA28	1A2900-12100	○	○	○	○
ワイヤ(アクセル	1A2900-55110	○	○	○	○
ワイヤ(メインクラッチ	1A2900-55200	○	○	○	○
ワイヤCMP(QB	1A2900-55650	—	○	○	○
スパークプラグ(点火プラグ)	165001-39430	○	○	○	○
シール TC152507	24421-152507	○	○	○	○
オイルシール 20×40×10	1A1540-28251	○	○	○	○
シール(オイル 12×18×5	1A2252-27500	—	○	○	○
ツメ(ナタ L	1A2900-35050	○	○	○	○
ツメ(ナタ R	1A2900-35060	○	○	○	○

12章 用語解説

本書の中で使われている用語の解説です。

表 12-1 用語解説

用語	解説	参照 ページ
エレメント	 エアクリーナーの構成部品の1つ。 空気の通り道にあり、吸気からチリやホコリを取り除きます。 エレメントで取り除かれたチリやホコリは、オイルだまりに落ちます。 耕耘機を長時間使用すると汚れがたまりますので、定期的に洗浄してください。	31
オイルバス式 エアクリーナー	 燃焼するために吸引される空気をきれいにするエアクリーナーの1種。 エアクリーナーの下側にエンジンオイルをため、エアクリーナー内の複雑な吸気の経路を通る途中で落ちるチリやホコリをエンジンオイルの粘性で吸着沈殿させます。 長時間使用すると、エンジンオイルの中に沈殿物がたまるので、定期的にエンジンオイルを交換してください。	13、26他
キャブレター	 エンジンの燃料(ガソリン)を気化する部品のこと。	12、28他
車軸(耕耘部)	 耕耘作業をする部分のこと。 車軸、耕耘爪などで構成されます。	9他
摺動部	たとえば、クラッチレバーやアクセルレバーを操作すると、そのレバーの動きに合わせてクラッチ、エンジンなどが作動します。このレバーと作動部をワイヤーなどで接続しています。このワイヤーが「摺動部」です。摺動部の動きが悪くなると、オペレータの操作が作動部にうまく伝わらず、ミニ耕耘機をうまく操作できなくなります。	23
抵抗棒	 耕耘作業をスムーズに行うための装置です。 ほ場に抵抗棒がささることで、耕耘深さを確保できます。 抵抗棒も爪と同様、長時間作業をすると、摩耗します。 耕耘爪と同じタイミングで交換してください。	11

用語	解説	参照 ページ
ドレン(ホース) キャブドレン ドレンプラグ	 <p>長期保管時には燃料を抜き取る必要があります。 燃料を抜く場所がドレンです。 潤滑油などを交換する場合は、潤滑油のドレン部からオイルを抜き取り、ドレンプラグ(栓)を取り付けてから新しいオイルを補給します。</p>	12, 28, 30, 31
ハンチング	エンジン回転が不安定になること。	15
ピストンリング	 <p>エンジンのピストン部に装着されている金属製のリング(輪)です。 ピストンリングはエンジン燃焼室の気密を保ち、シリンダ内の潤滑など、エンジンがスムーズに動くために重要な役割を担っています。</p>	38
火花ギャップ (電極すき間)	 <p>ガソリンエンジンの始動には、点火が必要です。この点火を起こす部品を点火プラグと言います。 プラグ先端が電極になっていて、このすき間を火花ギャップと言います。 適切なすき間(火花ギャップ)がないと、火花が飛ばず、エンジンは始動しません。</p>	37
ほ場	耕うんする畑のこと。	20
リード線	電気部品をつなぐコード(電気配線)のこと。	38

お問い合わせ先

お住まいの地域の販売会社へお問い合わせください。

ヤンマー農業機械株式会社

本社

〒530-8321 大阪市北区鶴野町1番地9号
梅田ゲートタワー

TEL (06)6376-6345

北海道支社

〒067-0051 北海道江別市工栄町10番地6

TEL (011)381-2300

東北支社

〒984-0011 宮城県仙台市若林区六丁の目西町8番地1 TEL (022)288-8451
斎喜センタービル 1F

関東甲信越支社

〒300-1161 茨城県稲敷郡阿見町よしわら1丁目19番地1 TEL (029)844-9007

中部近畿支社

〒524-0041 滋賀県守山市勝部2丁目3番地9号

TEL (077)582-9300

中四国支社

〒710-0024 岡山県倉敷市亀山622番地

TEL (086)428-5151

九州支社

〒833-0001 福岡県筑後市大字一条535番地2

TEL (0942)53-0333

ヤンマー沖縄株式会社

〒901-2223 沖縄県宜野湾市大山7丁目11番地12号 TEL (098)898-3111

ヤンマー農業機械株式会社

〒702-8515 岡山県岡山市中区江並428番地

お客様相談室

TEL (06)7636-9298

2021年7月1日現在

お客様メモ

購入日	年	月	日
購入店名			

YANMAR



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、事故を引き起こすおそれがあります。お読みになった後も必ず製品の近くに保存してください。

ヤンマーアグリ株式会社

<https://www.yanmar.com>

0A211-JA0444
2021.07-1
Japanese